

切り拓いた新たな歴史の1ページ 第40回臨時大会

大会発言集



75年スト権スト（動労青年部『写真に見る20年の足跡』より）



JS労の結成と東海労連結成が確認され固く握手する

JR総連山口委員長とJS労柳楽委員長・JR東海労淵上委員長

2023年12月14日

名古屋市れある

目 次

発刊にあたって	1
開会の挨拶・畑野副委員長	2
淵上委員長挨拶	2
山口 J R 総連委員長挨拶	5
議事進行に関するやりとり	7
【代議員の発言等】	
土川節夫代議員・新幹線地本	8
山本圭一代議員・新幹線関西地本	10
山本繁明代議員・静岡地本	13
丹羽成生代議員・名古屋地本	14
綿貫 均代議員・新幹線地本	16
浦谷幸二代議員・新幹線関西地本	17
熊谷 J R 総連書記長の感想	20
本橋書記長・総括答弁	22
柳楽 J S 労委員長挨拶	24
閉会の挨拶・斉藤副委員長	24
【参考資料】	
近畿地協定期委員会・東海労渡邊発言	25
9/8付・組織内組織の組合結成を認めない緊急声明	28
9/13付・新組合結成に関する J R 総連見解	29
J R 連合『民主化闘争情報』No. 1037・No. 1038	30
9.10集会における J R 総連山口委員長挨拶	31
近畿地協定期委員会終了後のやりとり	33
その後の津崎議長及び菅野副議長とのやりとり	37
11/29 津崎議長から地本笹田委員長へのLINE	37
12/2 第 1 回地協常任委員会の日程に関するやりと	37
12/8 近畿地協・菅野副議長（西労）とのやりとり	38
12/13 津崎議長から笹田委員長に以下のLINE	38

発刊にあたって

J R 東海労と J R 総連の今後の運動と組織の強化・拡大に向けて、必死に取り組んでいる仲間たちに贈る。

「東海労を結成してからこれほど活発な、これほど率直で付度のない、これほど J R 総連に対する指摘・批判・注文が多い発言ばかりというのは初めてです。「さあ跳べ、ここがロドウス島だ！」というビデオを見たことがあります。亡き松崎明さんや、私たち東海労の大先輩・船戸さんが登場して、ものすごいヤジや喝采の中で、発言の声がよく聞き取れないような、そんな大会の風景を、ある意味『ああ、これが作りあげることなんだなあ』と思ったものです。」

これは、第 40 回臨時大会で発言した 6 人の代議員の中で、一番最後に発言した新幹線関西地本の浦谷書記長の言葉である。「これほど J R 総連に対する指摘・批判・注文が多い発言ばかり」とはいったいどんな大会だったのか？

そして、6 名の代議員の発言の感想を求められた J R 総連・熊谷書記長は次のように感想を述べた。曰く、

「率直に言ってあまりにも酷いなど、J R 総連があまりにも酷いように言われているなど、非常に残念だなど思いました。本当に法人格を持つ労働組合としての発言なのかなど、私は非常に疑問を持っています。J R 総連の見解のことを言われていましたが、私は何が問題なのかわかりません。発言の意味がわかりません。」と。

このパンフレットは、大会の様子を可能な限り正確に再現するために、録音されたものを反訳したものである。ぜひ、ご一読していただき、読者の方がそれぞれに評価を下していただきたい。「歴史は動いている」と感じるのは我々だけではないはずである。

K・M

2023 年 12 月 J R 東海労新幹線関西地本

【開会の挨拶・畑野副委員長】

開会にあたり一言・二言ご挨拶申し上げます。

今臨時大会は8月18日に結成されたJ S労と共に東海の地に労働運動の灯を赤々と灯し続けるための確認と、そのためのJ R東海労連結成に向けての準備として規約・規則の改正を行うことです。32年前の夏にJ R東海労を結成し今日まで、あらゆる弾圧や組織破壊攻撃の嵐に対して、結成理念がぶれることなく現在まで組合員として、更にはOBとして組織と運動を守り発展させていくために奮闘してこられた仲間に対して敬意を表します。しかし、あと5年すれば結成当時の組合員は居なくなります。どうするのか？

J R東海労結成以降、加入をした森下さん、水野さん、松山さん、田川さんにどのように責任を持ちJ R東海労組織を存続・拡大させ、運動を継続していくのか問われてきました。そこに一石を投じ新たな闘いを作り出してきたのがJ S労の結成です。

そのJ S労の結成に対して、あるいは経過に対して、巷ではいろいろと評価されていますが、組織の存亡をかけ、組織の更なる発展と拡大を掲げて、知恵を出した私たちの組織です。組織の未来を作るのは私たちです。俗っぽく言えば、俺たちの組織、俺たちが森下君、水野君、松山君、田川君をしっかりと支えていくためにどうすればよいかと考えて作った労働組合である。ということです。そのことをしっかりと確認し、いつまでも東海の地に労働運動の炎を赤々と燃やし続けるために奮闘しようではありませんか。

今臨時大会はそのような思いに立って進めてまいりたいと思います。是非自分の言葉で、自分の思いを、仲間の思いを伝え、J R東海労の将来展望を切り拓くために、明るく元気に進めていけるようお願いします。また、本日は多くの傍聴者の参加をいただいています。そこでお願いです。傍聴者は基本的には発言資格はありませんので、その点は承知願います。ただ先達からは『ヤジも大会の華』という教えもありますので、節度ある対応をお願いし開会のご挨拶とします。

それでは議事次第に則りまして進めてまいります。

【淵上執行委員長挨拶】

執行委員長の淵上です。臨時大会に参加していただいた代議員、傍聴者の皆さん、大変ありがとうございます。年末の忙しい中、この組織の展望を作り出すために、ここに駆けつけて頂いたことに大変感謝しております。また、大変忙しい中、J R総連から山口委員長を始め3名の方に参加していただきました。後ほどご挨拶と感想をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

今回の臨時大会の目的は言うまでもなく、多くの組合員、特に関西地本の組合員の奮闘によって結成されたJ Rサービック労働組合、J S労をJ R東海労が組織として確認し、J R東海労の組織拡大と強化に向けて共に闘うことを確認するためです。そして、J R総連の運動の前進と拡大のために労働組合の活動を共に奮闘していくためのJ R東海労働組合連合会、J R東海労連を結成することを確認します。

J S 労は8月18日に結成されました。結成に向けて奮闘された組合員の方にまず敬意を表しておきたいと思います。J R 東海労がJ S 労と連帯して闘っていくことを組織として確認する事が遅くなってしまったことに対し、本部としてまずお詫びしておきたいと思います。J S 労結成にともなって、本部として組織的に整理しておくべき課題とJ R 東海労との関係性についての認識の一致を組織全体で確認していく必要があります、今日となりました。是非、ご理解して頂きたいと思います。

今日を新たな出発点として、J R 東海労、組織一丸となって、J R 本体、関連会社において、J R 東海労への組織拡大を実現するために奮闘していく、その決意を私たち一人ひとりが確立し、それを確認していく大会としたいと思います。

J R 東海労は、1991年8月、佐藤委員長を先頭に多くの組合員が結集し、会社による労働組合の御用組合化を許さず、東海の地に労働運動の灯を消さないを一人ひとりが決意してJ R 東海労を結成しました。それ以降、京力さん、石川さん、加藤さんへの解雇攻撃に示されるように、会社、国家権力の意志によるあらゆる組織破壊攻撃に屈する事なく、歯を食いしばりスクラムを固め、今日まで闘い続けてきました。私たちは、常に弱い側に立ち、権力と立ち向かってきた、この姿勢こそがJ R 東海労の立脚点であり、あらゆる弾圧に屈することなく結成以降32年間闘い続け、今日もJ R 東海労として堂々と存在し得ている核心がそこにあると私は思います。これからもこの結成の理念を忘れることなく、J R 東海労らしく闘い続けて行かなければなりません。そして、そのための組織を拡大し、強化し残していかなければなりません。

しかし、2029年には組合員が4名になってしまう現実を私たちは突き付けられています。この現実を克服し、1日でも長く職場にJ R 東海労の運動と組織を残して行かなければなりません。残される4人を支え4人と共にJ R 東海労の組織展望を作り出して行くために、私たち一人ひとりが置かれた場でJ R 東海労らしく闘い組織拡大を実現していくために奮闘していくことを議論し、具体的には継続組合員の拡大、関連会社における組織化と労組結成の闘いを組織全体で進めていくことを通じて、J R 本体での組織拡大を実現していくことを中央委員会や大会の場で議論してきました。

J S 労の結成は私たちの闘いの前進である事は言うまでもありません。今後更に組織展望への闘いを具体的に進めていくために、J S 労結成以降、この間、整理しておくべき課題として議論し、その課題の克服とその方向性について認識の一致を図って来ました。その上で、今後更に組織拡大の前進と労連として連帯した闘いを進めていくために議論しておくべき課題があると思っています。

私たちは労働組合として規約・規則に基づいて運営しています。本部方針に則った正しい闘いと言うだけでは組合員の一体感は作り出せません。8月18日にJ S 労が結成されましたが、本部として組織全体の議論が不足しているため結成の延期を要請書という事でお願いました。しかし残念ながら聞き入れてもらえませんでした。10月19日に拡大代表者会議を開催し、柳楽J S 労委員長は「今しかないとの判断で結成した」と言われていま

した、結成について、そこで闘っている方が判断することは当然だとは思いますが、本部要請を受け入れてもらえなかった事態は、労働組合として組織運営上極めて問題であると思っています。今後、こういった事態が発生しないようにしなければなりません。そのために、お互いの問題として本部としてもこの事態を捉え返し、しっかりと意思疎通を図っていきたいと思います。

また、J S 労は4名のJ R 東海労組合員が中心となって結成されました。結成以降、プロパー社員の組織拡大の実現に向けて奮闘されていると思います。プロパー社員の組織化とプロパー社員によるJ S 労としての自立・確立が必要であることはいまでもありません。一時的にはJ R 東海労組合員がJ S 労と二重加盟することは必要ではあるとは思いますが、この事態は早急に解消していく課題であると思っています。また、一般労組にはならないことも明言されておりますので、J S 労としての組織展望を作り出していくために、J S 労の仲間と連帯してプロパー社員による自立・確立、そして組織拡大を実現していくために共に奮闘していきたいと思っています。

今日の臨時大会で、J S 労と連帯しJ R 東海労の運動の前進と組織拡大を実現していくために労連を結成していくことを確認します。それは、J R 総連の旗の下に結集して共に闘っていくという事です。労連結成大会については、労連規約が必要であり、J S 労と規約の整備について、そして労連としてのあり方や組織運営について、組織的に議論を進め、結成の準備が出来次第、早急に結成大会を開催したいと考えています。

J R 東海労は、先程も述べたように2029年には組合員は森下さん、水野さん、松山さん、今日参加してくれている田川さんの4名となる現実に直面しています。この事態をなんとしてでも突破し、J R 東海労の旗を守り続けていくための組織を作り出していくのは、4名に責任を持つ私たちの課題です。J R 東海労の組織展望は、私たち一人一人の奮闘にかかっています。J R 東海労の運動の前進による、J R 本体と関連会社における組織化の前進なくして組織展望は切り開けません。その決意を改めて私も含めてこの臨時大会で確認したいと思います。

しかし関連会社における労組結成自体が直接的にJ R 東海労の組織展望を作り出すものではありません。また、J S 労の結成は、J R 東海労組織の拡大と強化のためであり、それ以外の目的はありません。私たちは、J R 本体、出向先会社で、それぞれが置かれた場で共に奮闘し、その闘いを連携させてJ R 本体での組織拡大を実現させなければなりません。

ロシアとウクライナの戦争、そしてイスラエルのガザ地区への武力進行によって多くの労働者、市民が傷つき亡くなっています。私たちは一日でも早くこの戦争を終息させなければなりません。また日本においても戦争ができる国づくりに反対し、戦争のない平和な社会を守ることは私たち労働組合の課題であり任務です。そして、労働者の権利と生活を守るために、J R 東海労として組合員数は少なくともはなりましたが、労働者の連帯を求め、労働者の代表者として前を向いて闘って行きたいと思っています。私たちはこの新たな地平を確認し、全組合員が力を合わせてJ R 東海労の組織展望を作り出していくことを臨時大会において改め

て確認し、職場での奮闘をお願いし、挨拶とします。

【山口 J R 総連委員長挨拶】

皆さんこんにちは。ご紹介頂きました J R 総連執行委員長の山口です。よろしくお願ひします。臨時大会開始にあたりまして、一言御挨拶を申し上げておきたいと思ひます。

今日ご紹介があつたとおり、熊谷書記長と伊藤広報部長と共に参加させて頂きました。臨時大会という機関開催はあまり機会がないので、平成採の執行部も今日も学ぶ姿勢で参加で今日も来ておりますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今日の主たる議題は、J S 労の組織的承認と、J R 東海労連の結成に向けた意思統一と伺つております。J S 労の結成に際して様々な議論があります。成果と課題があるかと思ひますが、後ほど意見を聞かせて頂きたいと思ひます。J R 総連は結成に際して「良い組合を作ろう」と言つてきた。良い組合とは、厳しい情勢下にあつても闘い続ける強い組織と、将来展望を明確にして、結集した組合員が目標と安心感を持つことが出来る組織という事です。立ち上げに際して、J R 東海労組合員の奮闘があつたことは事実ですし、今でもサポートをし続けていると思ひます。特に、関連会社で立ち上げる場合、プロパーや契約社員、パート社員が自立して闘うためには、結成前の前段の準備は計り知れないと思ひます。私も経験がありますが、埼玉県の大宮にニューシャトルという新交通システムがり、先輩の出向先になっていました。そこに組合を立ち上げようと私も実践しましたが、最終的にはプロパーの仲間が決起する直前に尻込みをしてしまい断念せざるを得ませんでした。このような苦い経験が、私自身にもありましたから、自らが闘える良い組合を作ろうと言つてきたわけです。

ところで、臨時大会を前に水をさすような事態が発生しています。お聞きになっている方も多いいかもしれませんが、J R 総連近畿地協定期委員会での事態です。委員の発言の途中で、J R 連合の『民主化闘争情報』が配られたということです。我が J R 総連組織の定期委員会で、敵対組織の情報を無断で配布する行為は組織破壊行為と言わざるを得ません。

※会場から「ナンセンス」「どちらの味方か？労働者か？」

J R 西労の執行委員会でもこの事態は組織破壊と確認をしております。まさに定期委員会の妨害です。残念ながら、事前にビラ配布の許可も得ていないということなので、配布した意図は分かりません。J R 総連として近畿地協には配布の意図を明確にするための調査をお願いしたところであります。さらに、配布された民主化闘争情報には裏面に、『J R 総連緊急声明』なる文書が印刷されていますが、J R 総連の公式見解は9月13日付の文書しか存在しません。

※会場から「違ふよ」

にも関わらず、検討中の文書を、あたかも公式文書のように装い、組合員に誤解と不信を与える行為は組織破壊を狙つたものであり、その意図は、組織破壊行為と言わざるを得ません。なお、この検討中の文書は作成した当時、J R 東海労三役に議論をお願いをしました。

しかし、トーンが高いという事で発出していません。したがって、この文書を持っているのは、JR総連とJR東海労三役のみです。組織内で公になっていない文書を、何者かがJR連合に送りつけ、民主化闘争情報に活用されたことは組織破壊行為以外の何者でもないという事です。当然にも、JR連合の手に渡れば、組織破壊の材料として活用されることは言うまでもなく、その情報は会社や権力にも流れることは言うまでもありません。JR連合に武器を与えただけでなく、郵送という主体的な行動によるものであり、そこには何らかの意図があるという事です。一連の経過を知らないJR総連全組合員に混乱を引き起こしています。極めて重大な組織破壊行為といえます。しかも、ビラという形で、公になっていない文書を表返しすること自体、JR総連とJR東海労の信義に関わる問題であり、これまで作り上げてきた信頼関係をも破壊する行為だという事です。

※会場から「誰がくばったんや」

このビラ配布について、近畿地協の津崎議長や菅野副議長の回収の指示に対して、傍聴者から「撤回」という声が上がったということです。

※「俺が言ったんや」

回収の指示に対して、配布した本人が、配布をやめて回収したのならば、その意図は、配布した個人のものと言えますが、しかし配布もしていない第三者から回収という指示が出された事実からすれば、どう考えてもこのビラ配布は、組織的に行われたという事です。

※会場から「なんでそうなる？」

JR総連に敵対する行為、つまり組織破壊攻撃が行われていると言わざるを得ません。

※会場から「好きやな、組織破壊攻撃」

重要な問題です。この問題の解明も近畿地協にお願いしたところです。

12月8日に交運労協三役幹事会がありました。JR連合政所書記長から熊谷書記長に対し、「また送られてきましたよ。住所も差出人も同じで、中身は近畿地協の委員会での発言。名前は塗りつぶされている。どうなっているんですか」という話がありました。送られたのは近畿地協定期委員会での委員の発言です。公になっていない文書の郵送と同一人物かはわかりませんが、組織の内部暴露であり、このようなやからは組織破壊者と断罪するしかありません。

※会場から「誰よ」

近畿地協の定期委員会に参加した他の委員からも意見が出ています。定期委員会での発言はお一人で、発言時間は15分に及んだと聞きます。西労から参加した貴重な平成採の委員からは「発言を用意していたにもかかわらず、発言できなくなった。あきれた」と言っています。

※会場から「そんなことないやろ」

発言は自由ですが、組織強化の観点からも貴重な若手のやる気をそぐ行為であったことは自覚して頂きたいと思います。JR総連は、近畿地協定期委員会の経過を、昨日行った、第7回執行委員会で議論しました。淵上委員長からも、地協の問題とは言え、東海労組合員

が行った行為であるという事に対して、謝罪がありました。単組選出の副委員長からは、J R総連の定期委員会で、J R連合の情報をまくとはどういうことか。組織破壊。内部文書を公にする行為も許されない。どんな意図があったのかハッキリすべき。東海労臨大にも影響を及ぼすのではないかと、という意見があり、議論の結果、11月26日開催の近畿地協第35回定期委員会で発生した、J R連合の情報とJ R総連の内部文書を両面刷りし配布した行為は、組織破壊行為である。J R連合に内部資料を郵送する行為も、組織破壊行為である。J R総連とJ R東海労の信頼回復を図るべきだ。近畿地協に対して、事実経過、目的を明らかにするための調査を要請することを確認しました。近畿地協常任委員会も昨日常任委員会を開催し、ビラ配布について組織破壊行為と確認し、関係者からの聞き取りを行うことを決定しています。J S労の組織的承認を受けるべき臨時大会を前にして、J R総連組織に対する一連の組織破壊が発生したことは看過できない事態である。J R総連としても地協や単組と連携を取って事態の解決に向けて議論を継続していくこととします。

さて、淵上委員長のあいさつでもJ S労の結成を前後する経過が述べられました。J R総連としてもしっかりと経過の総括はして頂き、今後議論すべき課題について、臨時大会で明確にして頂きたいと思います。

労連の結成という事は、J R東海労とJ S労が、同じ基盤で、共に闘う事になります。これから具体的な規約の整備になりますが、それぞれが独立した組織として、主体性を発揮して、更なる組織拡大に邁進しなければなりません。とりわけ、現在の組合員は65歳で退職した以降は、どのような組織展望を見いだすのか。プロパーの仲間が自立して闘いを担わなければなりません。ですから、プロパー組合員の名前を明らかにして、労連に加盟し、プロパーの中から労連役員を担ってもらわなければなりません。二重加盟の早期解消も提起されています。組織展望は、冒頭申し上げた通り、組合員の今後の目標と安心感へとつながる物です。展望のない組織ほど組合員にとって不幸なことはありません。J R総連加盟各単組も、それぞれが組合員との議論を通じて組織展望を明確にして茨の道を切り開いています。J S労が組織的に承認されて、今後の展望を切り拓くための継続した議論を組織的に行っていくことが、これまでの課題克服にもつながると思います。これからもJ R総連の旗の下に結集し、2024 J R総連春闘、安全健康ゆとりを実現する闘い。日本の軍事大国化、戦争体制の強化に反対し、憲法9条を守る闘い。地域から、鉄道と物流ネットワークを守る闘いなど、多くの課題解決に向け共に歩を進めてまいりたいと思います。J R東海労第40回臨時大会の成功を祈念し、J R総連を代表してのあいさつとします。

よろしく申し上げます。ありがとうございました。

【議事進行に関する提起に対するやりとり】

三田：組織を維持発展させるための大会の議事日程について提案したい。関西地本大会での動議の取り扱いについて問題となった。議事運営規則を今大会から活用できるように改正を議事の最初に行う必要がある。そうしないと整合性がとれない。もう

一点は動議の提出時期。答弁に対する動議等々についてはその都度、動議が提出できるようにすべきである。

松山：議事進行を変えと言うことか。

三田：議事の最初に行くこと。

松山：動議の提出が必要ですが。

三田：そうすると議運に対する動議となるので、審議してもらえないか。

松山：議事運営規則30条の事か、議運で協議する。

松山：それでは議事次第の変更を行う。まず議事運営規則の改正案を最初にお願いしたい。

議長：議事運営委員会の提起を承認する。

畑野：本冊19ページから議事運営規則の改正案を提案する。

議長：異議がなければ拍手で承認を求める。

代議員全体が拍手

議長：承認されたことを確認する。

代議員の発言

【土川節夫代議員・新幹線地本】

マスク外します。新幹線地本選出の代議員番号1番の土川です。よろしくお願いします。

先ず、本部提起の方針を全面的に支持し、共に闘うことを明らかにしておきます。

J S 労の結成は時間をかけて、汗水流して、ときには涙を伴う、プロパー社員への働きかけという大変な闘いの結果と受け止めて、敬意を表するとともに、教訓は何か、さらなる拡大強化のためには何が必要なのかということを考えさせられました。

これまで関西の仲間の苦闘や憤りなどを聞き及んできました。組織強化・拡大に対する熱意、そこで働く人たちの思いを受け止める質、それらをエネルギーにして続ける忍耐力だと思いました。今日ここで、その仲間たちの元気なワクワクするような表情を見て、さらに勇気づけられたと思っています。

J S 労の結成は、ただ単に組織拡大を実現したという事だけではなく、J R 東海労を J R 東海労として残し、未来を切り拓く、そして、強く大きく広げる方針をまさに実現させた闘いは、いかなる非難も否定もされるものではありません。

世の中はいまも、ウクライナ、ガザの戦争状態、国内の戦時体制づくりにあるように危機的な状況が続いています。このような現実を否定し、反戦平和の闘いを担う労働者を作り広げるという意味にも今回の仲間の拡大は繋がります。私たちが J R 総連の全国の仲間と共に目指している闘いが広がるということに他ならないものです。

つまり、J R 東海労の結成の合い言葉である「東海の地に労働運動の灯を消さない」闘いであるという意味でも、J S 労結成は、何ら非難も否定もされるものではありません。

新幹線地本はかつて SMT 出向者を中心に初めて関連会社との団交を勝ちとり、その後

も関連会社や警備会社との団交をつくりだし、ビラ配布や交流を通じて共感を得ることができました。さらに拡大も目指してきました。しかし、加入までには至っていません。

しかし今、関西で関連会社において、まさに組織拡大が実現したのです。私たちが開けたアリの一穴から流れ出た小さな一滴が、大きな川となり、大海に迎り着こうとしていると思うと、感慨もひとしおです。そのことから今回のJ S労結成は画期的なことで、快挙としかいいようがありません。また、J R東海労連として共にJ R総連の旗の下で闘うということは至極当然のことであり、そのために一刻も早く、方針（案）では早期にという表現ではありませんが、一刻も早く東海労連を結成すべきです。

J R東海労連の結成は、単にJ R東海労とJ S労の連帯・共闘にとどまらない。我々がJ R東海に働く労働者の結集を働きかけることであり、J R東海労の各地方で第二、第三のJ S労の結成のための闘いに邁進するということだと思えます。

以上のような画期的な意義ある闘いであるJ S労結成に対して、東海労が「困る」と言っているのに、J R総連が、「手続き上も、形式上も、内容上も、労働組合の組織運営として問題がある」等と言ったJ R総連見解を9月13日に出されたことは、如何なものかと言わざるを得ません。

※会場から「そうだ」

組合員からも疑問の声が出されています。今後、このようなことがないようにしていただきたいと思えます。

先ほど山口委員長のあいさつで仲間を組織破壊者呼ばわりする、そういう内容がありました。これはいかがなものかと。同じ仲間を組織破壊者呼ばわりされるのは頂けません。

※会場から「そうだ」

これについてもぜひ撤回して頂きたいと思えます。

※会場から「撤回しろ」

新幹線地本は今臨時大会に向けて、分会代表者会議を開催し意思統一を図ってきました。分会の取り組みに多少の濃淡はありますが、これは地本の取り組みが遅れてしまったことに原因があります。今後、地本として責任を持って労連結成や東海労の将来展望をどうするか、地本としてプロジェクトを作って今議論を始めています。その中で、特に検討すべきこととして、本日提案したいことがあります。2025年度で今現在本部・地本の先頭で闘っている役員はすべて退職をしていくわけです。継続組合員となる決意が必要ですが、本部・地本の体制が組めない状況となるわけです。是非、継続組合員に執行委員として奮闘してもらわなければならないそういう状況になっています。したがって、継続組合員という名称もありますが執行権についても議論が必要です。是非、今後議論としていくことを確認してもらいたいと思えます。

さらに東京運輸所分会での取り組みについてはこの後、綿貫代議員の方から発言していただきたいと思えます。議長の取り計らいをお願いします。

ともあれ、新幹線地本として今大会方針に全面的に賛成し、J S労と固く連帯して、J R

東海労の展望を切り拓くために更なる組織強化・拡大を目指していくことを明らかにし、発言を終ります。

【山本圭一代議員・新幹線関西地本】

代議員番号13番、関西地本大阪第二運輸所分会の山本です。

大阪で新しく結成した「J S 労と共に」ということをメインテーマにした、この臨時大会、淵上委員長はじめご努力いただいた本部の皆さんに心から感謝します。

J S 労、8月に結成しましたが、その前後で何だかゴチャゴチャしました。大阪で開催した大弾圧から30年の「9.10集会」での、JR総連山口委員長の発言には、本当にびっくりしました。「あっ、またや」って思ったんです。4年前、2019年1月31日、「一方的な休日出勤反対」の闘いをスト権を確立して闘おうということで開催した「第34回臨時大会」で、当時の榎本委員長が、スト権確立は認めないということで、その闘いが頓挫したことを思い出さずにはいられませんでした。だから「またか」って思ったのは私だけではないと思います。

皆さん、「何でやろうなあー」って思いませんか？ いろいろ意見はあってもいいですよ。意見はあってもいいんですが、意見と言うレベルじゃないでしょ。あれはダメ、これはダメ、ああせえー、こーせえーってね。JR総連は上部機関ではなくて、あくまで連絡調整機関やと、そう聞いてます。違うんでしょうか。JR総連はものすごく偉いようですが、労働組合ってそんなもんなんでしょうか。私はJR総連が連絡調整機関ではなくて、指導機関でもいいと思うんです。指導機関でもいいんですが、その内容が正しくなければ、間違っているならば糾さなければなりません。だから言わせてもらいます。

J S 労の結成というのは、出向先の関連会社で、そこで一緒に働く労働者が苦しんでいる。賃金は安い、仕事はきつい、管理者はJR本体からの天下りの能無しばかりで締め付けがキツイ。そんな労働者と共に、新しい組合を作って一緒に闘おう、ってことですよ。100%正しいでしょう。そこに苦しんでる労働者がいる。何とかしようということです。

さらに、J S 労の結成は、すでに過去の遺物となった「54歳原則出向」という攻撃に対して、果敢に反撃して2度も3度も出向先を変えさせた。しかし、結局はサービックに出向させられた攻撃への反撃なんです。「出向に出したことを後悔させる」ってことで、分会長だった前田さんを中心に作ったのがJ S 労なんです。JR東海という会社に対する闘いでもあるんです。そういう側面もあるんです。サービックの意思是JR東海の意思ですから東海と闘っているということなんです。

「二重加盟を早急な解消に向けて取り組みます。」って、方針書にもなんか書いてあります。「二重加盟」じゃないと意味がないんです。何で分かってくれへんのかな〜。「二重加盟」じゃないとプロパーの人は加入できないんです。契約社員は契約してもらえなくなるんです。だから、独り立ちできるまでは「二重加盟」じゃないとダメなんです。

実は今、「ユニオンと東海労の二重加盟もありやな」という話をしてるんです。そんな時

に、早急に解消するなんて、本部もわかっていないと言わざるを得ません。東海労との二重加盟の早期解消って、なぜダメなのか私は理解できません。何が不都合なんですか。どう都合が悪いんですか。

東海労とJS労の二つの立場で団体交渉に出るなんて、如何なものかと山口委員長は言われましたが、世の中には、そんなことはあるんです。社員じゃなくても、組合員じゃなくても団交には出れるんですよ。弁護士の先生が団交に出ることだってあるんです。組合が自主的に決め事なんですよ。

ですから、言いたいことは、労働組合は労働者の利益を守るために、組合員の利益を守るために存在するということです。当たり前のことなんです、現状では当たり前ではないんです。ご存知だとは思いますが、今JRでは「JR連合」が一番大きいんです。御用組合とか養殖組合とか言ってますが、要するに組合員のためではなくて、会社の施策に協力して、会社にイイ子イイ子されて、組合幹部としての自分の立場を守るために存在するんですから、大きいだけではダメだということでしょう。その逆を行けばいいんです。会社にとって都合の悪い存在でなければ意味ありません。

「9.10集会」で山口委員長は「東海労とJS労の中に同じ人物が団体交渉の交渉員として表れると、サービックという会社からJR東海労に対しての信用が著しく失墜されてしまう」って言われました。会社から信用されたいということですか。そうだとしたら、我々とは価値観が全く違います。真面目に組合運動やってたら、会社からは嫌われるんです。芳野とかいう連合の会長が、いそいそと政府の会議に行ってるような、なんか、そんな感じがします。

労働組合は、全ては組合員の利益、労働者の利益のために、この一点で存在すべきだということを、この臨時大会で改めて確認しようではありませんか。

※会場から「よし」

それから本部に、二つお願いがあります。

一つは、JR東海労連の結成日についてです。本日の臨時大会で、具体的な日程を決めてほしいと思います。東海労が勝手に決められるのではなく、JS労の了解が必要ですが、東海労の定中開催日の2月11日に、大阪で開催してほしいです。どうですかJS労の柳楽委員長、良いと思いませんか。

※柳楽委員長:OKです、よろしく願います。

OKの返事を頂きました。

もう一つは、先ほど土川代議員も言われましたが、継続組合員の組合員資格の整理についてです。JR総連の山口委員長は、すでにJR東日本を退職して、社員ではなくOBです。それでも、総連の委員長をされています。ところが、東海労の継続組合員は代議員になったり、役員になれないんです。なんでなんででしょうか。おかしいんじゃないでしょうか。JR総連がやっていることが、東海労ではだめだというんはおかしいと思います。現実にそぐわないと思います。これこそ早急に是正されるべきだと思いますので、よろしく願います。

なんだかんだ言っても、私の鉄道人生は、残すところ1年とちょっとになりました。あっという間に45年が過ぎようとしています。国鉄に入社して、4歳年上の兄に続いて、動労に加入しました。鳥飼基地の検修職から運転士に登用されて、これまで特に可もなく不可もなく、多くの仲間を支えられて今日まで生きてきました。私は今、大運分会の分会長です。今年、分会長になるまでは、これといった役員の経験もほとんどなく、いわゆるノンポリで、のんびりと野球やゴルフなどをやってきました。32年前に仲間と共に東海労の結成に参加して以降もそうでした。脱退した奴もいっぱいいましたが、まあ何となく、65歳まで東海労にいればいい、くらいに思っていました。

しかし、石川さん、京力さん、加藤誠二さんの解雇処分、そして、不当な乗務降ろしやボーンスカット、休日出勤の強要、年休抑制など会社の厳しい攻撃、弾圧にも一切怯まず、果敢に闘っている先輩や仲間たちの姿を目の当たりにし、何やモヤモヤするというか、かき立てられるというか、そんな気持ちになりました。しかし、一方で、それをどこかで抑えている自分もあったんです。アカンなど思いつつも人に任せっぱなしでした。先輩や仲間たちは、めっちゃくちゃ忙しそうに活動しています。クタクタになって活動してしまっていました。特に本人訴訟の裁判では、自分達で書面を作るわけですから、もちろん定岡先生からのアドバイスはありますが、基本的に自分達で書くわけです。会社側の東大法科出の銀座のど真ん中に事務所を構える弁護士相手にやるんですから、大変です。でもみんな、楽しそうにやってる。実に朗らかです。そんな先輩や仲間たちを見ると、やっぱり「俺もやらなあかん」と思ったんです。そういう風に思ってきたんです。自然とそういう風に思えてきたんです。不思議なものです。だから私もみんなに支えられながら本人訴訟を原告として闘えました。

そして、見た目は悪いけど、田川君が加入してくれました、大変嬉しかったですよ。やはり、仲間は大事。仲間と言えば、11月26日の近畿地協での渡邊発言が色々言われています。彼は私の可愛いかわいい後輩です。高校の後輩でございます。良いこと言ってますよ。「お願いだから一緒に闘いましょう」、「お願いだから」ですよ。お願いだから一緒に闘いましょうと。ご存じだと思いますが、国労から東海労に来た男です。それで今必死になって闘っている。どうしても良ければ何も言わずに黙っている。なんとかしたいから、必死に、おかしかったらおかしいと訴えているんです。何も言わずに、言われたままにするのが、一番危険なんじゃないでしょうか。反戦平和の闘いもそうでしょう。しっかり議論して前に進んでいくことが大事だと思います。

残り少ない鉄道人生を悔いのないものにしたい。そして、私も先輩たちと同様に65歳を過ぎても東海労の組合員として闘っていきたくて思っています。

幸いなことに、私はまだ東海会社の本体にいます。時間は残り少なくなりましたが、諦めていません。田川君に続く若い仲間を獲得したいと強く決意しています。その為の具体的闘いとして、弁護士に頼らず、組合員12名で本人訴訟の闘いを立ち上げました。

皆さん、諦めないで共に闘いましょう。ありがとうございました。

【山本繁明代議員・静岡地本】

代議員番号7番、静岡地本選出の山本です。よろしくお願いします。

まずもって、本臨時大会のJRサービック労働組合の仲間と連帯しJR東海労の未来を切り拓く運動方針案の具体策、JRサービック労組との連帯について、JR東海労働組合連合会結成に向けた取り組みについて、静岡地本は全面的に支持し、共に奮闘していく決意であることを表明します。そして、先ほどの山本圭一代議員の、東海労連を、2月11日の東海労定中の日に関西で結成する提案に大賛成です。今日、そのように決定すべきです。

※会場から「よし」

この間、この東海の地に労働運動の灯を消さないために、あらゆる組織破壊と闘い組織拡大を実現させ、既存の労働組合運動を乗り越え、新たな道をも切り拓いてきた、全ての仲間に敬意を表します。そして今また、私たちの未来をかけて私たち静岡地本も共に存在していることに感動と自信をもって、発言をさせていただきます。

JS労の結成について、この間静岡地本は一貫して連帯し共に闘って行く決意で議論し、激励なども行ってきました。サービックに出向させられた関西の仲間たちが、その職場で労働条件改善のために奮闘し、共に働く労働者の信頼を勝ち取って、その労働者と共にさらに闘える新組合を結成した熱い思いに、私たち静岡地本は強く共感し全面的に賛成です。それが静岡地本の総意です。それはこの間、共に苦闘を重ねてきた仲間なら誰しもがそう思うのではないのでしょうか。様々な制約や障害があったとしても、それを理由に否定する者がいるとすれば、その者は本当に東海の地に労働運動の灯を消さないという決意でいるのか疑問になります。そんな人がいることを私たち静岡地本は信じたくないです。

過日のJR総連東海地協定期委員会に、委員として出席した高山本部副委員長は、山口委員長に「9月13日発行された『JR総連見解』の撤回を、東海労静岡地本の総意として求める。」と発言し、委員会終了後に、山口委員長から、「本当に『見解』の撤回は、静岡地本の総意なの」と聞かれたそうですが、本当に総意です。東海労の闘いに水を差すような、東海労が「困る」と言っている「JR総連見解」などを出してもらっては困ります。あんなものを出すから、JR連合に「民主化闘争情報」なんかを出されるんです。また、東海労OB会長をはじめ、OBの皆さんにも大きな誤解と心配をおかけしているんじゃないですか。これが静岡地本の総意です。山口委員長、よろしくお願いします。

各地で労働運動の灯を消さないために奮闘されているように、静岡地本にも現在2名の継続組合員がいます。たんなるお飾りではなく、業務委員会にも出席し職場問題について会社と議論し闘う場に参加しています。また、専任社員の仲間たちも継続組合員になる決意でいます。そしてOBの方でも、組合員として東海労の運動と組織を支えてもいいと言ってくれている人がいます。渥美弘さんです。

10月29日、JR東海労は「袴田巖さんの早期完全無罪を勝ち取る10・29集会を浜松で開催しました。現職組合員とOB、関係団体や一般市民など90名以上が結集しました。JR総連から八幡副委員長にご出席いただき、美世志会や各単組・OB会などからも多くの

メッセージをいただきました。この間、静岡地本は袴田さんの再審公判を実現させるために、浜松袴田巖さんを救う市民の会に連帯し活動してきました。この市民の会の会員として渥美さんは奮闘されたんです。平和人権民主主義を守る闘いをその場で実践されているのです。その実践のもとに、今回の集会の成功があったとって過言ではありません。

その渥美さんは、OB個人という立場を超えて、組織的な信頼度と行動力を発揮できるよう、JR東海労組員として市民の会の活動に参加していくことを切望されています。先ほど、山本圭一代議員からも発言がありましたが、山口委員長はJR東日本会社を退職したOBなのに、JR総連の委員長ができるんです。なんで、渥美さんが東海労の組員になれないんですか。ぜひ、本部は、渥美さんの東海労組員承認を、さらに前向きに検討してほしいと思います。

何はともあれ、本日の大会で、労連結成の道筋が切り拓かれることにより、それはJR総連の組員が拡大することにも繋がります。

2014年静岡地裁が袴田さんの再審を開始と釈放が決定した時、私たちの闘いにも連帯してくれていた、袴田巖さんを救援する清水・静岡市民の会の山崎事務局長は「JR総連と東海労には本当に感謝している。これからも共に頑張りましょう」と言ってくれました。私たちの闘いは、森下くん、水野くん、松山くん、田川くんやJR東海労の未来のためだけではありません。

私たちの闘いには、平和人権民主主義を守る為に闘っている方々の期待も、未来もかかっていることを忘れてはなりません。

静岡地本は、新たな道を切り拓いたJS労と固く連帯し、JR東海労、労連、JR総連に結集する全ての仲間と共に奮闘することも表明して発言を終わります。

【丹羽成生代議員・名古屋地本】

代議員番号8番 名古屋地本副委員長の丹羽です。

今第40回臨時大会の議題であります「JRサービック労働組合との連帯・連携の強化」並びに「JR東海労働組合連合会の結成」について、全面的に支持します。そして、労連結成日と場所。先ほどの山本代議員の案に賛成です。是非、本部は2月11日、関西で労連結成をお願いします。大阪で美味しい酒を飲みたいと思います。よろしくをお願いします。

私は、同じ地球上において、今なお戦禍の続くロシアによるウクライナ侵攻、イスラム組織ハマスとイスラエルの武力攻撃により、人間の尊い命が奪われ続けていることに深い悲しみと怒りを抑えきれません。言うまでもなく私たちは、テロにも戦争にも反対であります。

しかしながらそれに抗する市民、団体、労働組合などの反対運動は低迷しています。今こそ職場、地域から連帯・共闘の輪を拓いていかなければなりません。権力者にとって、平和を希求する労働組合などはもってのほかであり、いつの時代においても弾圧の対象となります。

JS労の結成宣言には、「安心して暮らせる社会。不安のない雇用状況が私たちの生活基

盤である。」として「物言えば唇寒し」の世の中を拒否し、「物言えば唇寒し」の会社を拒否する。と、謳われています。まさに東海労の目指す道と同じであり、「東海の地から労働運動の灯を消さない」ための結成でもあります。いわんや、この時代において新しい労働組合の創造は日本労働運動の新たな端緒を切り拓いた闘いだと言っても過言ではないと思います。

過日、10月19日に開催された本部の全地本代表者会議に名古屋地本の代表として参加をしました。JS労の柳楽委員長をはじめ西、高木副委員長、前田書記長からの報告や思いを受け、改めてというか、そもそも私自身はなんも疑問は無かったです、結成にね。確かに8月18日の結成についてはリアルタイムで知ったわけではありませんでしたが、何よりも「よう創ってくれた」「有難う」という想いでした。勇気を与えられたんです。偉そうなことは言えませんが、それぞれ置かれた場で本当に東海労のために、東海労の将来展望をどう切り拓いていくのかを真剣に悩み、苦闘していなければわからないと思うんです。当日、JS労西副委員長が会社からの出向攻撃に対して、「絶対に帰ろうと思ったし、出向に追い出した会社を許せなかった。絶対にやり返してやろうと思った。西を出向に出して失敗したと会社に思わせ後悔させたいと思っている。」と報告されました。

23年前に当時、亀山で運転士をしていた名古屋地本の現・御辺書記長は会社からの不当な転勤攻撃で紀伊長島へ飛ばされました。その時に西さんと同じことを言ったんです。「俺、御辺を転勤させたことを会社に後悔させてやる。」と、怒りがばねとなったわけです。その後闘いが続きバネになったんです。決してあきらめない。あきらめてはいけない。敗北主義者にならない。先ほどの大阪運輸所分会の山本分会長が分会大会あいさつの中で「会社からの54歳原則出向の攻撃によって出された仲間がJS労を立ち上げた。これこそ54歳原則出向の攻撃に抗する闘いなんだと。何もできないと思っている会社に、やってやるんだという気持ち、拡大しかない。」とされています。まさに、その通りだと思います。私も苦闘を共有し闘っていきます。さらに今日、名古屋地本OB会長の許可を得、地本のOB会の情報を配布させて頂きました。一部、他地本ではOB方が足を引っ張っているんだと言う声が送られていますが、名古屋地本のOB会は一枚岩となって闘っていきますので、併せてよろしくをお願いします。

さて、私は1991年5月、東海労結成前夜に開催された、東海旅客鉄道労働組合、当時の東海労組主催の「安全フォーラム」に、当時の神領電車区分会から「多治見駅事故の教訓」というテーマの発表を行いました。

JR発足以降、会社は「安定的な経営基盤の確立に向けて」の名のもとに、事故や些細なミスに対して個人への徹底した責任追及を行い、職場では物言えぬ雰囲気を作られていました。多治見駅事故の当該運転士は乗務を下ろされ構内清掃、ペンキ塗りを強要され挙句の果てに配転をさせられました。私は、強権的な会社と何もできなかった組合。社員の苦しみや不満。そういった現状を、「安全フォーラム」の場で「声よとどけ」と発信しました。その後、当時の佐藤委員長は「会社に声は届けた。しかし、届かなかった。」と会社姿勢を批

判しました。

私たちはこの間、ＪＲ総連に対して様々な声を届けています。それはＪＲ総連運動の更なる強化と発展のためなんです。東海労の運動と組織の前進のための切実な声なんです。

ところがどうでしょう、今日の山口委員長の挨拶を聞き、怒りでいっぱいでありました。我が仲間を組織破壊者と言われて黙ってられるか。

※会場から「そうだ」

今の、組合員の声を聞く耳を持たないＪＲ総連の姿勢では、「ＪＲ総連は労働者の見方づらをして、会社と同じで組合員をいじめているんじゃないか」と思われてしまいますよ。いや思ってるよ。したがって、山口委員長は、東海労が「困る」と言っているのに、それを無視して９月１３日に総連見解を出したことを撤回し、しっかり反省し、今後このようなことをしないで下さい。最初に、関連会社から東海労は直加入を勝ち取ったんだから、せめて評価して下さいよ、あいさつの中でも。

※会場から「そうだ」

まさにそういう事なんじゃないかと私は思うんですよ。急に聞いたんで中々大変かと思えますけど、一生懸命頑張ってるんだから。

最後に、本部にお願いします。名古屋地本も残念ながら組合員は少なくなっています。しかし、松山君を先頭に、彼を支え、彼と共に、これからも東海労の旗を守っていく決意です。その場合、どうしても継続組合員の力が是非必要です。山本代議員が言われましたが、継続組合員の組合員資格、先ほど言われましたが、ＪＲ総連では退職したＯＢでも役員ができるのに、何故、東海労ではダメなんですか。先日、山口委員長も出席されたＪＲ総連東海地協の定期委員会には、今日も傍聴されている継続組合員の越坂さんと山田さんが、委員としてその任務をまっとうしてもらっています。ＪＲ総連では問題になっていないんです。東海労も、是非、改めることを提案します。

以上、発言を終わります

【綿貫均代議員・新幹線地本】

代議員番号４番東京地区分会の綿貫です。

発言を予定していた、東京運輸所分会の斉藤代議員ですが、お父さんが亡くなり帰っています。東京運輸所分会からの要請で代読します。よろしくお願いします。

８月１８日、関西の地にＪＳ労が結成されました。結成まで大変な努力をされた組合員、ＯＢの仲間に敬意を表したいと思います。

９月１３日に「新組合結成に関するＪＲ総連見解」が出されました。９月２６日に開催した第３回分会執行委員会では、このＪＲ総連見解を読み合わせ、そして、ＪＲ東海労第３９回定期大会での当時の木下中央執行委員長のあいさつの内容、運動の基調、組織拡大に向けた闘いの具体策、さらにＪＲ総連大会での組織方針を読み合わせました。その結果として、ＪＳ労結成は、ＪＲ総連の方針、ＪＲ東海労の方針に則った闘いであることを確認しました。

10月19日に本部主催の全地本代表者会議が開催されました。第4回分会執行委員会では、その代表者会議の議論内容を踏まえ、分会主催の出向者交流会を目前にして、J S 労に関して運輸所からの出向者に対してどう報告するか議論しました。

そして、出向者交流会の場では、J S 労結成に関して、「継続議論中ながら、J R 東海労とJ S 労は、東海の地に共に労働運動の灯を燃え上がらせるために連携していく方向性を確認したこと」を出向先で組織拡大に向け奮闘されている仲間に報告し交流を深めました。

11月28日の第5回分会執行委員会では、J R 総連の見解、近畿地協定期員会での渡辺幹夫委員の発言原稿の読み合わせをおこない、我々は結成以降、組織破壊攻撃に抗し組織拡大しようががんばってきた。このことをJ R 総連に結集する仲間に分かってもらうための議論が必要だという事を確認しました。

分会執行委員会では、私が言ったことではなく発言者の俗人名も出しませんが、J S 労結成の経緯に関して、「また、関西か、柳楽か、前田か、もっとうまくやっていたら」との意見があったのも事実です。しかし結成のやり方に疑問があったかもしれませんが、それは解消していけば良いし、組合員名を明らかにできないことなど形式通りにはできない事情もあるが、J R 東海労とともに闘うという仲間は大事にするべきであると思意統一しました。

J S 労結成は、東海の地において大きな一歩を切り開いた意義のある闘いと捉えるべきです。せっかく手を握り合ったのに、「8月18日の本部要請書を受け入れなかったのは問題である」とか、「二重加盟の問題」とかの、まだまだ議論すべき課題はあります。しかし、それらの事は議論して行けば解決できることです。それを理由にしてこちらから手を離すべきではない。いやもっと強く握り合うべきではないでしょうか。

隣で働く労働者が劣悪な労働条件で、苦しい思いをしているときに、東海労の組合員は知らん顔を出来るわけがないんです。東海労のこれまでの闘いで培われた労働者魂は、共に労働条件改善の闘いを創り出していくことではないでしょうか。東京運輸所分会は、この臨時大会で確立するJ S 労と共にJ R 東海労の組織展望をつくりだしていく闘いに全面的に賛成であり、ともに闘っていく決意です。先ほど、山本委員が言われたように、2月11日の東海労定中の日に関西で労連結成に大賛成です。

東京運輸所分会は、東京の地においても出向した仲間と現状を共有し労働組合強化への道を作り出していくことを述べ発言を終わります。以上、代読でした。

【浦谷幸二代議員・新幹線関西地本】

代議員番号11番、新幹線関西地本の浦谷です。

5人の代議員から発言がありましたが、私が知っている限り、東海労を結成してからこれほど活発な、これほど率直で忖度のない、これほどJ R 総連に対する指摘・批判・注文が多い発言ばかりというのは初めてです。

「さあ眺め、ここがロドウス島だ」というビデオを見たことがあります。亡き松崎明さん

や、私たち東海労の大先輩・船戸さんが登場して、ものすごいヤジや喝采の中で、発言がよく聞き取れないような、そんな大会の風景を、ある意味「ああ、これが作りあげるといふことなんだなあ」と思ったものですが、今日のこの臨時大会、まさに新しい組織を作り、新しい運動を作り、まさに新しい歴史を作るにふさわしい大会として東海労の歴史に刻まれることになるかと確信します。

さて、J S 労の結成から間もなく4ヶ月経とうとしていますが、どうしてこうも騒動を引き起こしているのか。なぜ、こうもスムーズに進まないのか。なぜ、こうもガタガタとチャチャを入れられなければならないのか。不思議でなりません。あるOBの先輩から「情勢分析がなっていない」と大変ありがたくも厳しい注文も受けていますが、頭は悪いですけど、私なりに考えているんです。「どうせ最初っから一般労組ありきなんだろう」とおっしゃる先輩もおられます。なんで、そうなるんですかね。

大運の山本圭一代議員も言われたように、4年前の第34回臨時大会、スト権を確立するために臨時大会を召集した本部が、そのスト権を確立するという大会の開催目的を自ら諦め、断念したことは東海労の歴史の中では「汚点」です。その時も、総連からチャチャが入りました。本橋書記長が総括答弁で、J R 総連の榎本委員長からスト権は確立するなど言われたので、「今日の臨大では確立しません」と言ったことをよく覚えています。

果たして、J R 東海労の方針は誰が決めるのか。いったい誰が作るのか。この当たり前のことが通用しなくなっています。したがって、私は、今日の第40回臨時大会の方針は、我々J R 東海労が、大会の民主的運営に基づいて決定する、一切の妨害や横やりを許さない不退転の覚悟と決意で実現することを申し上げ、以下、何点かについて発言します。

まず一つ目です。大会が始まる前に会場の入り口で、近畿地協の津崎議長に関する資料を配布してもらいました。各地本の方にもお配りしておりますが、この資料は私が作りました。責任者は私です。すでにほとんどの参加者が目を通されたと思いますが、要するに「嘘」はいけません、ということです。簡単なことです。山口委員長は先ほど何と言われましたかね、組織破壊的行為ですか？行動ですか？言われましたよね。だけど、地協委員会で渡邊委員が発言したことは何で組織破壊攻撃になるんですか。この発言の説明のビラを配布しましたが、言われて直ぐに回収したことが、なんで組織破壊的行為、行動になるんですか。私には、理解できません。渡邊委員の発言は、委員会では全く問題にされていないんです。そして、一旦は配布したビラも、西労所属の菅野副議長から「回収するように」と言われて、回収したんです。そしてその後、委員会は粛々と進められ、なんの混乱もなく終了したんです。

むしろ、私に言わせれば、渡邊委員が発言している最中に、来賓としてご参加していた熊谷書記長が、ひな壇から渡邊委員に対して「いつまでしゃべってるの」って品のない発言をしたり、委員会の議長である山本に対して「発言時間を決めていないのか」と、これもまた聞いて呆れることを言われました。はてさて、これは来賓としてどうなんでしょうか。ヤジは大会の花と言いますがズバリ、熊谷書記長のこの発言は、ヤジでは無く委員会への介入、

議事妨害じゃないですか。

※会場から「そうだ」

まあ、それはさておき、その後、津崎議長は私とのやりとりの中で「組織破壊を確認した」って何度も言うんです。熊谷書記長も参加しておられたから、わかっていますよね。委員会の中で、渡邊委員の発言やビラ配布は「組織破壊的行為だ」なんて確認されていないことを。だいたい、地協の最高決定機関である定期委員会で組織破壊などと確認されていないことが、なんで事後の常任委員会で確認できるんですか。こんな嘘つきは、私は地協の議長として認められませんし、上部機関であるJR総連が早々に更迭するようにお願いいたします。

※会場から「そうだ」

二つ目です。東海労連の結成についてです。本部の方針や各代議員からの発言から言っても、もう何の障害もなく結成されると思います。山本代議員が「2月11日開催の中央委員会と同じ日に、そして大阪で結成を」と言いました。それ以降の全代議員が「賛成だ」との発言でした。淵上委員長、JR東海労連の初代委員長は淵上委員長です。JS労の柳楽委員長が「俺がやりたい」と言ったら私は反対しますから。淵上委員長が初代委員長になることを前提に、是非とも2024年2月11日、大阪でJS労の組合員も参加しやすい環境で結成すると決めて下さい。今日決めて下さい。今日決めましょう。ぐずぐずする必要など一切ないと思います。よろしく申し上げます。

3点目です。私は、今年の4月、54歳原則出向でサービックに出向に出されました。実は、私自身はなかなかうまくプロパーの人を組織化できません。下手なんです。私以外の仲間たち、他の事業所も含めて、サービックのおばちゃんや、クセのあるオッサン達と仲良く付き合っています。そして、もうかなりの方がJS労に加入しています。私にとっては本当に簡単ではありません。仲間からは「お前は硬すぎる」とか

※議長から「後があるのでまとめて下さい」

今までは別の会社だった人、東海労の組合員ではない人と関わるということの難しさを痛感しています。私が国鉄に入社して、広域異動で敦賀から大阪に来て、JRに採用されましたけども、すでにつくられた組織の中で、昔は国労と、今ではユニオンの敵対に抗し、会社と闘ってきました。しかし今回のような闘いは初めてで、やはり「初めて」とは、地本大会の特別決議じゃないですが「端緒は常に困難である」という事です。とつくづく実感しているんです。でも、私は、その困難な闘いを仲間と共に闘いたいし、自分の現状を切り開いていきたいと考えてます。

ですから山口委員長お願いです、もう邪魔することは止めてください。これまで、いろいろ言ったり言われたりしましたが、今日で止めにしてしまうじゃないですか。こんなこと言うとか、何ですが、JR総連は組織人数、今何名ですか？東労組は何名から何名にへったんでしょうか。余計なお世話だと言われそうですが、東海労のことより足元を見るべきです。東海労は逃げも隠れもしません。これからもJR総連の一員として全国の仲間達と共に闘いを担って行くことを改めてお誓いいたします。

最後です。本橋書記長にお願いです。私も地本の書記長ですから、その立場、その責任、その責務の重大さはわかってるつもりです。後ほど、総括答弁をされるとと思いますが、結成のこと、継続組合員のこと、それについてしっかりと代議員の発言を踏まえて、代議員の発言に沿った総括答弁をお願いします。間違っても、どこかの圧力に負けて

※議長から「終わって下さい」

あるいは、4年前の第34回臨時大会のような組合員の付託に応えないような総括答弁は無いようお願いします。もし、繰り返されるようならば、今回は動議の取扱いも改正されましたので、代議員の権利を行使させていただくつもりです。もちろん、そうならないと信じています。

少し、長くなりましたが、産みの苦しみを全体で我がものとしましょう。東海労は少数ではあるけれども、少数派ではありません。限りなく多数派の可能性を秘めた東海労です。JR東海労連の結成と、それを契機としたさらなる前進のために頑張りましょう。ありがとうございました。

【JR総連・熊谷書記長の感想】

JR総連の書記長をしています熊谷です。

先ず感想について言っていきますけども、率直に言ってあまりにも酷いなど、言われるかなと思いますね。JR総連があまりにも酷いように言われているなと思ひまして、驚きよりも、非常に残念だなと思います。

※会場から「反省したらいい」

本当に法人格を持つ労働組合としての発言なのかなという事を思いました。私は非常に疑問を持っています。JR総連の見解のことを言われていましたが、私は何が問題なのかわかりません。発言の意味がわかりません。なぜだか分かりますか、JR総連の規約に、規約の目的には次のように書かれています。加盟組合及び組合員の団結の強化と組織の拡大と書かれています。

※会場から「異議無し」

JR総連には東海労だけが加盟している訳ではありません。

※会場から「当たり前」「当然だ」

北海道労組も、東労組も、西労も、貨物労組も加盟しています。JR総連はその加盟組合に責任を持たなければなりません。

※会場から「当然だ」

当然、団結を乱す行為、指導しなければなりません。

※会場から「当然だ」

必要があれば見解を発出しなければなりません。

※会場から「間違ったら正さない」と

今回のJS労の立ち上げ、この過程に対して、東海労以外はJR総連と同じ立場です。

JR総連の見解と同様な考え方であり、同じ立場に立っています。逆に見解発出時が、これでは弱いのではないかという単組もあって指摘されています。なぜ東海労だけが他の加盟組合と違うんですか。その差は一体何ですか。冷静に考えるべきです。

※会場から「闘ってるからだ」

組織人として正しい実践をするべきです。加盟単組の中で東海労だけが浮いてしまうんじゃないかと思います。

※会場から「浮いてないよ」

浮くような現実が、先の近畿地協での、東海労の言動で現れています。自分たちは正しいと思っているかもしれませんが、会議は異様な雰囲気にも包まれ、東海労が発言したあと、誰も発言が出ていません。地協の委員で発言が出たのは東海労の一人だけです。このことをどう思いますか。ダメだと言われたのにビラをまき、許可も得ないでビラをまいています。それも民主化闘争と世に出回っていない声明をセットに。民主化闘争情報はJR連合のJR総連組織破壊文書で、それは発言した渡邊さんの、発言の中で言っていますよね。組織破壊だと、分かっていること自体が組織破壊です。それを許可なくまいたんです。これがJR総連に加盟している単組のやることですか。これが、言葉ではJR総連と共にと言いますが、言っていることと、やっていることはまるで違います。

※会場から「違わないよ」

浦谷さん、私のことを言う前に、先ず、東海労出身の、近畿地協の常任委員なんですから、指導すべきではないですか。これが先ずやるべき事だと思います。組織人として、当然のことだと思います。近畿地協の委員会に参加した人から、先ほど山口委員長も言われたように、議長も東海労だから、前もって仕組んでいたんじゃないかと。発言を準備していたが、発言できなかった、と。多分、若い人たちは皆同じだろう。あのビラを肯定的な立場でまくことはどうなのかと、背景には何かあるんじゃないか。委員会をぶち壊された思いだ。と言っています。これが、東海労が行った言動の結果です。東海労の行ったことは一般的ですか。

※会場から「常識だろ」

加盟単組は怒ってます、そして呆れています。自分たちが行っている行為が正しいことだと考えを改めて頂きたいと思います。しかし、残念ながら、

※会場から「やめろ、やめろ」

昨日の執行委員会で、定期委員会で民主化闘争情報と出回っていない文書を撤く事自体が組織破壊攻撃だという事が確認されました。また、ビラ配布と第三者から声が出ていることは組織破壊の動きがあること。近畿地協に関係者への聞き取り調査を要請することを確認してきました。今後、事実を解明し、組織破壊に抗する体制を構築していきます。また、民主化闘争情報も出ています。なぜ、またこういう物が出るのでしょうか。明らかに意図して出ている。しっかりと、このことについても解明していきたいと思います。

最後に、労連について決定すると聞いております。JR総連の立場は、JR総連の旗の下に労連を結集するのであれば、二重加盟でなく、プロパーで組織することが前提で、是非、

※会場から「それ、どこに書いてあるの」

～二重加盟の解消をお願いします。

※会場から「あなたが決めることじゃないよ」

※山口委員長が「静かに聞いてくれよ」

【本橋書記長・総括答弁】

皆さん大変お疲れ様です。書記長の本橋です。総括答弁をさせて頂きたいと思います。

本日、臨時大会で発言された6名の代議員の皆さん、本当にお疲れ様でした。その発言を踏まえまして総括答弁という風にさせて頂きます。今臨時大会で勝ち取るべき課題は、一つにJR東海労運動の前進と組織強化・拡大を勝ち取るために、東海労とJS労が連帯し共に進むことをこの場全体で確認するという事がまず一つ。

二つ目に、JR東海労とJS労がJR総連の旗の下に結集して共に闘うために、JR東海労連を結成すること、これの確認。

三つ目に、結成されるJR東海労連にJR東海労が加盟するための、JR東海労規約の、これの改正です。形式的にも内容的にも、JS労の仲間と共に闘いをつくり出していく第一歩を踏み出したという記念するべき大会であるとあらためて全体で確認したいなと思います。運動の基調で提起した通り、東海労の将来展望に向けた取り組みは、一つに、JR東海ユニオンをはじめとする組織拡大。第2に出向先など関係会社で働く労働者に関わりをながら、それを通じて獲得するという事。三つ目に継続組合員の取り組みであります。第39回定期大会で確認されたことであり、この課題を我々の力で勝ち取り、東海の地に労働運動の灯を消さないため、いや、むしろさらに赤々と、さらに燃え上がらせる。JR東海労運動と組織を将来にわたり発展させていくために、全組合員の力で奮闘していることは言うまでもないということです。

今臨時大会発言の中で、各代議員の皆さんから、JS労と共に連帯して闘うと言う発言がありました。関西新幹線サービックで働く労働者が劣悪な労働条件の下で働かざるを得ない姿を見て、また労働者の声を生で聞いた東海労、我々の仲間が「なんとかしたい」と思ったことに間違いはないことだと思います。しかし、関係会社のプロパー社員との関係づくりはすぐにはできなかったわけではありません。これまで関西新幹線サービックへ出向に出された先輩、仲間が、JR東海労の組織拡大のために尽力され、奮闘されてきたことと思います。そうした闘いがJS労結成に結実したということであり、本部として関わってこられた仲間の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。結成に至る過程で、本部との齟齬から、軋轢が生み出されたことも事実ですが、私たちはこうした齟齬を克服するため、中央執行委員会、全地本代表者会議及び各地方での議論を積み重ねてきました。そして今臨時大会で、JS労と連帯して東海労の未来を切り拓くという、新たな領域に全組合員で挑むことになります。

また東海労とJS労が、総連の旗の下で共に闘っていくために、JR東海労連の結成について提起させていただきました。東海労連には、当面、東海労とJS労が加盟することに

なりますが、来年、早い、提起の中では、来年、2024年の早い段階での結成を目指す。J S 労との議論を元に、J R 東海労運動の発展と組織強化・拡大を勝ち取るための組織としてつくり出していきたいと考えます。

先ほど述べましたように、J S 労の結成に向けては多大なご苦勞があったことと思います。その苦勞があったことを踏まえて、解決しなくてはならないこともあるかと思えます。

一つ目にJ S 労の結成にあたり、関西新幹線サービックやJ R 東海にその動きを察知されないよう、極めて少人数で結成に向けた議論を進めたことから、本部との齟齬が生まれた、という事と思っています。今後はこのようなことがないように、組織間の密接な議論をしていこうという風に考えています。

二つ目に、東海労とJ S 労との二重加盟についてです。プロパー組合員だけで労働組合として組織を運営していくこと、団体交渉を行うことや、組織拡大に向けた取り組みも、経験が無いことからどう取り組めばよいのか悩みながら進まざるを得ないことは間違いありません。そうした理由から、出向している東海労組合員が、一時的にJ S 労に二重加盟せざるを得ないという事だと思えます。しかし、プロパー組合員が組織運営を担うことは本来の姿である、という風に考えますし、また同時に、労連加盟に向けてプロパー組合員を純粋に育てていかななくてはならないと思っています。

本部としてはこの二重加盟については、方針提起の通り、早急な解消に向けて具体的に日程などについても議論を作っていくという風に思えます。プロパー社員が中心となって組織運営ができるよう、関係を強化していくことが組織課題だと思っています。

労連の結成について、ほぼ全ての代議員から、来年の定期中央委員会であります2月11日に大阪で開催をと言う声がありました。本部としても、この発言に応えられるよう取り組んでいきたいという風に思えます。

本部としてJ S 労の皆さんと、規約等を検討しながら、結成に向け準備をしていきたいと考えています。

一方、J R 連合は、先ほども述べましたように、私たちに対する組織破壊攻撃を民主化闘争情報等を使いながら行っています。J R 総連で内部対立が勃発か等と情報の中で言っていますが、これは、総連と東海労が対立しているなどと大きく宣伝することによって、総連、東海労、J S 労を含めた、私たちの組織を破壊するという事になりますから、私たちはこのようなことを、仕掛けてくるJ R 連合を問題とするべきであって、攻撃にひるむことなくJ R 総連と共に組織破壊攻撃に抗していきたいと考えています。

また、発言の中で継続組合員に組合員権、執行権などを持たせるよう、発言がありました。このことについては本部として受け止め、議論をしていきたいという風に考えています。

いずれにせよ、私たちは歴史的な一步を踏み出した、という風に思えます。

東海の地に労働運動の灯を消すことなく赤々と燃やし続けるために、J S 労の仲間と連帯しJ R 東海労の未来を切り拓こうではありませんか。そして3M1Tに続くJ R 東海ユニオン組合員をはじめ、関係会社の仲間の獲得に向けて、J R 総連の旗の下に結集しJ R 東

海労運動の前進を勝ち取ろうではありませんか。

私もそのために、闘いの最先頭で奮闘していくことを明らかにして、第40回臨時大会の総括答弁とさせていただきます。

共に闘いましょう。

【JS労・柳楽委員長】

ご苦勞様です。また柳楽かの柳楽です。JS労の執行委員長をやっています。よろしくお願いします。皆さんの発言を聞いていて、感無量の、そういう心境であります。本当に皆さんのおかげです。ここまで押し上げて頂きまして、本当にありがとうございます。繰り返し申し上げたいと思います。これからも仲間の皆さんと共に、言われているように、東海の地に労働運動の炎を消さないために。あるいはJR総連運動の拡大のために、闘う決意を先ずもって申し上げておきます。実は、昨日2名、今日3名、4名の組織拡大を勝ち取っていることを先ずもって報告させていただきます。

いずれもプロパーの方なんですね、まだまだ拡大の目はありますので、これから奮闘してまいりたいという風に思っています。浦谷代議員から、柳楽を労連の委員長に絶対させないという事がありますので、ここは私は、よしわかったと、淵上委員長に労連委員長をして頂いて、私は二番で我慢を致しますので、よろしくお願いをしたいと思います。

発言にもあったように、私の言いたいことは全て、周りの皆さんが、代議員の皆さんが仰って頂きまして、私の方からは、もうこれ以上いう事はありませんけども、一つだけですね、産みの苦しみというのを味わいまして、したがって、第二の、あるいは第三の新労組結成に向けて、SE、あるいはSMT、新労組を立ち上げましょうよ。

そういう事を申し上げて私のあいさつとしたいと思います。これからどうぞよろしくお願い致します。

【閉会の挨拶・斉藤副委員長】

ご苦勞様でした。参加した仲間全員がJS労と共に闘うことを決意されました。JR東海労組織が新たな闘いのステージに立ちました。3M1Tを支えることはもちろんのこと、新たなアルファベットを加えるために、職場や出向先の会社で皆で奮闘し、JR東海労の組織展望を切り拓いていきましょう。

以上を持ちまして、JR東海労働組合第40回臨時大会を閉会します。

最後に淵上委員長の団結ガンバローで大会を締めたいと思います。

以上

2023. 11. 26

東海労の渡辺です。今年の地本大会で副委員長になりました、歳は60ですが、駆け出し者です。緊張して、何を言いたいのか、わからなくなりましたので、原稿を書いてきました。原稿を読み上げて、発言にしたいと思えます。よろしくお願ひします。

東海労は、1991年に結成して、今年32年を迎えました。西労の皆さんと同じ歳です。この32年間、葛西労政による東海における御用組合化を拒否して「東海の地に労働の灯を消すな」の精神で、今日まで闘ってききました。そして、私たち関西地本にとっては、生裡忘れることのできない石川隆作さん、京力正明さんの懲戒解雇をはじめとした大量処分・大弾圧の攻撃を、結成3年目の93年に受けてから、今年、ちようど30年を迎えました。

この30年、いや結成から32年間、常に私たち東海労を支えていただいたJR総連に結集する全国の仲間の皆さんに、改めて感謝します。これからも、よろしくお願ひしたいと思ひます。思ひますが、しかし、今、私はその感謝の気持ちをも、これからもずっと持ち続けることができるのか自信がありません。それは、最近のJR総連、特に山口委員長のおっしゃること、言動が理解できないばかりか、許せないと思うことがあるからです。

どういうことかと言ひますと、石川さんと京力さんが解雇を通告された9月10日に、30年の節目として、「大量処分・大弾圧から30年！東海労の未来を切り開く9.10集会」を開催しました。60名収容の会場でしたが約80名の仲間が集まりました。鳥

飼基地出身の西労の仲間にも参加いただきました。西労の本部からは、あたたかいメッセージを送っていただき、ありがとうございます。そして、JR総連からは、山口委員長に参加してもらいました。問題は、ここでの山口委員長長の発言なんです。

もう、多くの方がご存知だと思いますが、極めて少数になった私たち東海労は、組織の展望を切り開くために、東海労の運動と組織を残すために、出向先の関連会社に新しい労働組合を作りました。「JRサービッツ労働組合」です。略称「JS労」と言ひます。サビッツという新幹線の整備会社は、車両や駅の掃除なんかをやっています。

私は、このJS労の結成をJR総連の皆さんは喜んでくれると思ひてました。「よ〜作ってくれた」と褒められ、激励されると思ひてました。

ところが、「9.10集会」に来賓として参加していただいたJR総連・山口委員長は、お祝ひでも連帯でもなく、JS労の結成を褒めるどころか、もうボロクソに言われる挨拶をされたのです。私は、ホンマにビックリしました。ホンマに信じられませんでした。正直、その思ひは、今、さらに拡大しています。

何故ならば、11月21日にJR総連東海地協定期委員会が開催されましたが、その場で山口委員長は、こう発言されたんです。

「『民主化闘争情報』には、JR東海労新幹線関西地本の仲間がつくり上げたJS労に関して、批判的に書かれている。『私たちの闘いにケチをつけるな』と強く言ひたい。仲間たちが一生懸命議論して、良い労働組合をつくろうと取り組んでいるんではない。仲判をするんじやない』と、声を強くして言ひたい。」と言われているんです。はつきり言ひて、あきれてしまいました。私たちは、山口委員長に『私たちの闘いにケチをつけるな』と強く言ひたいんです。そして、組織が混乱するから止めてほしいと言ひているのに、「新組合結成に関する見解」を出したりして、妨害するのは止めてほしいんです。

私の様な者が、JR総連や山口委員長の言動に抗議するとか、反論することは、なかなか勇気がいりますが、しかし、なかなか機会がないので、今日はいいい機会なので、思い切って言わせてもらいます。

皆さん、JR連合が11月17日発行した『民主化闘争情報』No.1037見えますよね？(ここで発言内容を補強し解説するために、他の東海労の委員が「参考資料」=『民主化闘争情報』No.1037「9/8付組織内組織の組合結成を認めない緊急声明」を配布)

『民主化闘争情報』は、JR連合が、JR総連を攻撃するため、好き勝手に書いているものですが、この中に、JS労結成に対し、私が知らなかった、見たこともなかった、JR総連が9月8日付けで決議した『組織内組織の組合結成を認めない緊急声明』があると書かれているんです。それで私は、色々伝手を使って文書を探し入りました。そして、本部の役員さんに確認したら「緊急声明」に間違いないとのことでした。こんなヒドイ文書をJR総連が作っていたのに驚きです。

この『緊急声明』の内容は、9.10集会で、山口委員長が発言された内容よりも、さらにボロカスに、事実を歪曲し、JS労を攻撃した内容の文章です。

私は、この『緊急声明』を読んで、悔しくて、怒り心頭になりました。JR総連は、なんでわかってくれないんですか！私は先輩から、「東海の地に労働運動の灯を消さない」ためにJR東海労を結成したと教えられました。だから私も、そのために、仲間と共に、今日まで奮闘してきました。そしてJS労も、これからも、「東海の地に労働運動の灯を消さない」ために、新しい場所に、新しい労働組合を結成して、東海労とJR連の運動と組織を残し、発展させていこうとしていているんです。これのどこがいけないんですか？私には分かりません。

今日は、熊谷書記長が参加されておられますから聞きたいんです。JR総連執行委員会

が9月8日に発行した『緊急声明』には、「JR東海労中央本部の組織決定と組織指導に従わずに結成した『サービック労働組合』を断じて認めるわけにはいかない」とか、「8月28日に開催されたJR東海労関西地方本部定期大会では、・・・規約・規則に則らない議事運営が行われた」とか、あげくのはてには、「今回の事態は、JR東海労出向組合員数名がJR東海労中央本部執行委員会決定と再三にわたる組織指導に従わず、二重加盟をした上で、JR東海労に組織内組織を立ち上げたものである。このような事態は明らかに組織破壊であり、決して認められるものではない」とまで書かれています。

熊谷書記長！この「緊急声明」はJR総連が作られたものですよ！JR総連は、JS労結成について、本場に「緊急声明」に書かれているように思っているんですか？そして、JR連合の「民主化闘争情報」に書いてあるように、来年1月26日に開催されるJR総連の中央委員会で統制処分なども考えているんですか？是非、ハッキリ答えてください。

熊谷書記長もご存じでしょうが、東海労は、JS労結成に関し、10月19日に全地本代表者会議を開催しました。その場には、JS労の仲間も参加しました。その会議では、当然のことですが『緊急声明』に書かれているような意見などありませんでした。そして、「JS労の結成は、東海労が今日まで積み重ねてきた議論にもとづいた取り組みである。」「東海労の将来展望を切り拓くためのものである。」「仲間との議論で確認されたことを最優先で実践し、実現したものである。」「したがって、JR東海労は、JS労と共に進む」「JR職場と出向先職場での闘いを更に強化しよう。」「ということが確認されました。そして、東海労は12月14日に臨時大会を開催して、JS労と共に東海労連結成を決定することも確認しています。

現在、私たちは、JR東海の職場での組織拡大は当然のこと、サービックだけでなく出

向先での組織拡大と新労組の結成を模索し、OBの先輩方の力をも借りて奮闘しています。言うまでもなくそれは、東海の地から労働運動の灯を消さないためです。すなわち、

熊谷書記長＝「まだ喋るのか？」「まだ、しゃべるのか？」

渡邊＝「しゃべるよ、最後まで」

東海の地から労働者のために闘うJR総連運動の灯を消さないためです。

JR東日本会社の姿勢を見ればわかる通り、今、日本の支配層は、日本の労働運動と労働組合組織をなくそうとしようとしているんです。

熊谷書記長＝「議長！ 発言時間、決めてないの？」

私たちは、そんな流れがある中で、どうにかしなければいけないと思って、必死に頑張っているんです。だから私は、山口委員長やJR総連の皆さんに言いたいのです。私たちの闘いの邪魔せんといってください！ 足を引っぱらんとってください！ と言うことを。私たちは「無い知恵」を絞って、組織の展望をなんとか切り拓こうと思ってるんです。JS労の結成も、「絶対に思ったとおりにうまくいく」なんて、そんな自惚れていませんよ。会社だって必死になってるんですから。

私たちが、会社に対して精一杯闘ってるのに、味方のはずの山口委員長、JR総連が後ろから鉄砲を撃ったらアカンでしょう。何で私たちがやがることを、「組織破壊」とまで言われなかんのですか！ 私たちは、東海労を無くそうとか、JR総連を破壊しようなんて考えていませんよ！ 発展させるために奮闘しているんです。それが何で「組織破壊」と言われなかんのですか！

東海労は、今社員の組合員は130名です。このままでは、このままではですよ、あと5年したら平成探の4名だけになるんです。だから何とかしたいんです。それだけです。

ちゃんど組織をつくり、残すことが大事やと思います。私も今年、60になりました。会社に籍があるのは、あと5年です。幸か不幸か、出向には出されませんでした。鳥飼の台検にいます。だから私は、あと5年のうちに台検で組織拡大したいことです。会社をギヤフンと言わせたいんです。でも、一人では大変なんで、皆と相談しながらやっています。

すみません。めっちゃくちゃ偉そうなことを言わせてもらいましたが、こうやって、私にとっては雲の上の人であるJR総連の役員さんに対してでも、面と向かって思ったことを言う。それが本当の組合や、組合運動の進め方やって、今、そんなことも議論しているんです。私なんか飲んで酔っ払って、なんか言われたら直ぐに泣くんで、「ナベ、泣いたらアカンのや」「それでは情緒的になるから、理性的にやれ！」って、いつも皆から言われるんです。「まず理性的に、でも人間やから情緒も忘れたらアカン」って言われるんです。難しいです。

実は、私の嫁さんは、サービックで働いているんです。社員です。私の嫁だということ、はつきり言って、会社から目のカタキにされています。

だから私は、いつの日か嫁さんが「私もJS労に加入させてください」って、堂々と言えるようにしたいんです。

すみません。偉そうに言いました。私は、そして東海労は、これからも貨物労組、西労の皆さんと共に、JR総連運動の前進のため闘う決意です。よろしくお願います。発言・ありがとうございます。

組織内組織の組合結成を認めない緊急声明

2023年8月18日、JR東海労出向組合員数名がJR東海労中央本部の反対を押し切って、「JRサービック労働組合」を結成した。JR東海労中央本部の組織決定と組織指導に従わずに結成した「サービック労働組合」を断じて認めるわけにはいかない。

JR東海労中央本部は新労組結成に対して、8月9日に緊急の執行委員会を開催し、組織内で議論がされていない。二重加盟は認めない。よって結成は時期尚早であり延期すべきと決定し、再三にわたって組織指導を行ってきた。

しかしJR東海労出向組合員数名は、全く組織指導を全く聞き入れることなく新労組結成に向け準備を進め、「JRサービック労働組合」を結成した。

また、8月28日に開催されたJR東海労関西地方本部定期大会では、議事が終了したにも関わらず、突然、代議員から「新労組結成について特別決議」が動議として出され、趣旨説明もせず、賛成・反対意見もとることなく、拍手で採決されるという規約・規則に則らない議事運営が行われた。

最高決定機関である大会の議事運営を規約・規則を無視して行うことは労働組合として決してあってはならないことであり、その決定事項は当然無効である。

今回の事態は、JR東海労出向組合員数名がJR東海労中央本部執行委員会決定と再三にわたる組織指導に従わず、二重加盟をした上で、JR東海労に組織内組織を立ち上げたものである。このような事態は明らかに組織破壊であり、決して認められるものではない。

また、JR東海労関西地方本部定期大会では「新労組結成について特別決議」と題した動議が出されたが、労働組合としての規約・規則に基づく組織運営がなされていないことから、手続上も内容上も違反していることは明らかである。

労働組合は組合員に責任をもって、組合員の利益を守り抜くために責任をもった組織運営を行わなければならない。しかし、今回の事態は、一般論として、新労組結成に関して手続上も内容上も逸脱するものである。また、二重加盟をした上で組織内組織を立ち上げることは組織破壊である。これらの事態の重大性と緊急性に鑑み、JR総連として無責任な組織結成を断じて認めるわけにはいかない。

JR総連は8月22日に開催した第3回執行委員会において、①JR東海労中央本部自体が議論を行っていないで新幹線関西地方本部が新労組の立ち上げを決定していること、②「延期すべき」との本部中執決定に従わずに強行したことは重大な統制違反であること、③改めてJR総連として二重加盟は認めないこと、④JR東海労中央本部定期大会で関連会社に二重加盟の組合を立ち上げるという方針がない以上、新幹線関西地方本部で承認されたとしても無効であり、これを積極的に推し進める行為は統制違反に該当する恐れがあること、⑤そして、このような事態を受け止め、JR総連として組織指導していくことを確認し、持ち回り執行委員会で決定してきた。

従って、各単組は「JRサービック労働組合」の結成を許さず、早急な是正と問題解決のための組織指導を行うことを要請し、緊急声明とする。

2023年9月8日

全日本鉄道労働組合総連合会
執行委員会

新組合結成に関する J R 総連見解

2023年8月18日、J R 東海労の出向組合員が「J R サービス労働組合」を結成した。

J R 東海労中央本部は、新労組結成に対して8月9日に開催した執行委員会において、①新組合結成に向けての認識の一致が確認されていない。②J R 東海労組織全体での議論が不足している。③労働組合としての組織展望が議論されていない。④よって、結成については時期尚早であり延期すべき。ことを組織決定し、数度にわたって組織指導を行ってきた。

しかし、J R 東海労の出向組合員はその組織指導を聞き入れることなく「J R サービス労働組合」を結成した。

また、8月28日に開催されたJ R 東海労関西地方本部定期大会では、代議員から「新労組結成について特別決議」が動議として提出され、拍手で採決されるという事態となった。

しかし、規約・規則に基づかない議事の取り扱いも散見されるなど、労働組合としての組織運営としては課題を残した。

J R 総連は、今回の事態について①結成に至るまでの組織としての議論が不足していること。②J R 東海労中央本部からの数度の組織指導に組合員が従わなかったこと。③二重加盟は労働組合組織としては認められず、統制処分の問題になること。④組合員の名前が明らかにされない組織内組織は、組織破壊に繋がりがかねない。⑤J R 東海労関西地方本部定期大会での組織運営が規約・規則に基づいていないこと。など手続上も、形式上も、内容上も、労働組合の組織運営として問題であると認識した。

従って、J R 東海労にはこの事態の早期是正と適切な組織指導、ならびに問題解決のための組織指導を要請する。

同時に、各単組はこれら事態の緊急性に鑑み、早急な問題解決のために共に奮闘することを要請し、見解とする。

2023年9月13日

全日本鉄道労働組合総連合会
執 行 委 員 会

2023年9月下旬、JR連合に「葛西明」なる差出人から「組織内組織の組合結成を認めない緊急声明」というJR総連が9月8日付で決議した声明文が届いた。差出人住所は、所在地である東京都品川区のものとなっているが、消印は「大阪」となっている。同声明文は、JR総連のホームページ等では公開されておらず、内部告発の文書と見られる。

そこには、「JR東海労働関係新幹線地方本部役員らがJR総連とJR東海労働中央本部の意向に反して行った、JR東海グループ会社「関西新幹線サービス」内における新労組「JRサマービック労働組合」の結成は認めず、JR総連は問題解決に向けて組織の指導を行っている」とも、さらに加盟の他単組に対しても同様の取り組みを求めるとの旨の内容が書かれている。JRサマービック労組は、本年8月、JR東海労働関係新幹線地方本部の役員・組合員のうち、関西新幹線サービスビックに向向している役員らが中心となって突如立ち上げた労組であり、結成集会が9月1日に開催された。

「JRサマービック労組」結成に関する内部告発の文書がJR連合へ JR総連で内部対立が勃発か！

JR7社は、それぞれの関連企業とともにグループ企業体での事業運営を行っている。そのため、労組側もそれぞれのグループ企業に労組を立ち上げ、いわゆる「グループ労連」での活動を行っている。こうした労連では「エリア連合」と呼び、運動を展開する上で大きな役割を果たしている。他方、労組が無いグループ企業も存在するため、そこへ新たに労組を立ち上げること、JR連合やエリア連合の大きな課題ともなっている。

こうした取り組みの前提や課題はJR総連も同様だ。だからこそ、新たな労働組合の立ち上げは本来、JR総連としても喜ばしいはずの「成果」であり、ホームページや機関紙で大々的にお知らせするような話だ。だが、結成から約3か月が経過する今月に入っても、そうしたJR総連側からの情報発信は何もなされていない。つまり、冒頭で紹介した声明文の通り、「JR総連としては結成を到底認められない」というのは事実なのだろう。

JR総連の運動に背を向け始めたJR東海労の“うごめき”

JR東海では、JR東海ユニオンの組織率が100%に近くなる中、昨今のJR東海労は在時と比較して組織率を相当に減らし、団体交渉で物事を解決するというよりは、第三者機関での闘争活動に注力している。これは、労使間での影響力が低下し、言わば労使関係が破綻してしまっていることの本質とも言える。彼らが伝えている「年休総判」や「54歳原則」に反対して闘争を繰り返している。JR東海労には見られず、運動の方向性に明確な違いがある。第三者機関活用は、むしろJR総連・JR東海労から分裂した「JR東日本輸送サービス労組」に強く見られるスタンスだ。また、JR東海労内では、組織率の減少という現実を直視し、企業内労組の枠を超え、「一般労連化」して生き残りを図るべきとの意見も出ているという。これは、「横断的労働組合」の創出」を標榜し、グループ企業における組合員の獲得や個人への組合加入を積極的に進め、やはりJR東海労から分裂した「JRひびがし」の組織戦略と相通するものがある。こうした動きには、JR東海グループのみならず、JRグループ企業全体で警戒していくことが必要だ。

方針の逸脱にJR総連や他単組はどう向き合うのか

以上の情報を動察すると、JR東海労働関係新幹線地方本部の役員らが、JR総連やJR東海労働中央本部の意向に反した取り組みを展開していることは間違いない。即ちJR総連内に方針を巡って内部対立が生じている。JR総連は前述の声明で、新労組の立ち上げは「統制違反に該当する恐れ」があると述べており、今後どう事態に対処し、とりわけ来年1月26日の「第46回定期中央委員会」で統制処分等を行うかどうか。また、JR総連は加盟単組にも問題解決に向けられた取り組みを求めているが、中央本部と関西地方本部との間に内部対立を抱え、「総団構方針」を掲げてその事態取扱いに取り組んできたJR貨物労組こそ、こうした方針の逸脱には脱く反発すべきだが、さぞかし強い「指導性」を発揮するのでは。。。お手並み拝見だ！

JR連合に再び「葛西明」を名乗る人物から内部告発と見られる文書が届いた。差出人住所は前回と同様、JR総連の所在地である東京都品川区の住所であり、消印も前回同様、大阪市内からのものだ。今回届いた文書は、11月末に開催された、JR総連「近畿地方協議会」定期委員会における参加者の発言内容をメモにしたものであった。

その内容は、真実であれば極めて衝撃的なものであり、JR総連の「JRサマービック労組」(以下、JSS労)に対するスタンス等について、ある現役のJR東海労働役員が、JR総連の山口委員長や熊谷春樹書記長を指名し、痛烈に批判するというものであった。

~内部告発の文書が再びJR連合に送達~

JR東海労働役員がJR総連を痛烈批判！

実際に届いた文書を見てもよ。JR連合ではこの発言とされる現役のJR東海労働役員はある程度特定できているが、ひとまず彼をA氏とする。A氏はまず、JR東海労が9月に開催した「大野庄、大量処分から30年！JR東海労の未来を切り開く9.10集会」に触れている。その集会では山口JR総連委員長が来賓挨拶を行い、「JSS労に言及したうえで、A氏は「よ〜作って加えてA氏は、山口委員長がJR総連「東海地方協議会」定期委員会の来賓挨拶において、JR連合にJSS労の情報に記載した「民主化闘争情報No.1037」(11/17付)に対し、「私たちの間にケチをつけるな」と強く発言した」と痛烈に批判した。これほど明確に、かつ多くの人間に聞こえる形で加盟単組が上部機関を批判することは通常なら考えられない。つまり、本件について、JR東海労とJR総連の間には相当深い溝があるということだろう。

熊谷JR総連書記長の目前でJR総連を批判が

さらにA氏は、前述の「民主化闘争情報」で記載したJR総連の「組織内組織の組合結成を認めない緊急声明」を取り上げ、JSS労の結成をJR総連が「組織破壊」まで言及していることについて、「情けなく、悔しくて、怒り心頭になりました」と怒りを露わにしている。加えてこの近畿地方協議会定期委員会に来賓参加していた熊谷JR総連書記長を名指しの上、「熊谷書記長！この『緊急声明』はJR総連が作られたものですか？ぜひハッキリ答えてください」と指摘し、「山口委員長や統制処分などにも考えているんですか？ぜひハッキリ答えてください」と声を引っぱりんと叫んでいく。A氏は「私たちが、会社に対して精一杯闘っているのに、彼方のはずいぶんと批判が後からかからず、鉄砲撃つたらアカンでしょう」と痛烈に批判したようである。

JR東海労は臨時大会でJSS労を承認か!? どうするJR総連!?

A氏は、JR東海労が12月14日に臨時大会を開催し、JSS労の承認を行うことにも言及している。既にJR東海労の機関紙等にもその旨が記載されている所を見る。JSS労の承認については、JR東海労全体で方針としての意思統一がある程度出来ているのだろう。しかしながらJR総連は、JSS労のほか、加盟単組では、同趣旨の通り「組織内組織の組合結成を認めない緊急声明」を出している。JR東海労の方針はこの機関決定に明らかに反している。それでもなお、JSS労承認を推し進めるのであれば、JR総連とは決裂必至の状態に陥るだろう。加盟単組役員もJR総連を痛烈に批判するのは極めて異例だが、決裂を念頭に置いているのなら、裏向きは未だ沈黙を貫く。こうしたJR東海労の反JR総連的な取り組みに対し、JR総連は、理向きは未だ沈黙を貫く。かつてのJR総連であれば、「組織破壊」行為は即座に是正されたはずだが…。「総団構」という大黒柱を失い、10数年が経過する中、もはや組織の強制力も失われているのだから。また、JR総連が実際にJR東海労に対し、どのような判断を下すのか。また、JR総連の最大組織・JR北海道労組や、自組織に内部対立を抱え、「総団構」の必要性を説くJR貨物労組が黙ったままこれを見過ごすのか。事のなりゆきを、刮目して待とうではないか。

大弾圧・大量処分から30年

J R 東海労の未来を切り拓く9.10集会

J R 総連・山口委員長

みなさんこんにちは。ご紹介いただきましたJ R 総連委員長の山口と申します。よろしくお願ひします。30年間の闘いを先ほどビデオで学ばせてもらいました。学ばせてもらったというのは、実は弾圧が起きた時、私はまだ役員に就いて間もない頃だったんです。それで東海労の仲間の闘いというのは、私は東の職場にいて、リアルに伝わってきたということではありません。しかし今日のビデオを観て、反弾圧の闘いとそれ以降の東海労組合員の絆を固める闘いというのが同時並行的につくられてきて今度の東海労があるんだということであらためて私も認識をさせていただきました。東海労の仲間が闘った30年ということであれば、先ほど舟山さんからもご紹介ありましたけれども、J R 総連の立場で言えば、お二人を守り抜いた30年というふうに考えております。それはJ R 総連としての役員を担っていただき、かつ、鉄道ファブミリーでも組合員のために様々な共済の関係も含めてたたかい抜いてくれたお二人です。その雇用の場をいろんな方と議論を通じてながらつくり、そして共に歩んできた、守り抜いた30年ということが言えます。しかし残念ながら、今その鉄道ファブミリー・友誼団体も組合員の高齢化や、あるいは東労組の大量脱退ということを基にする組織減少で正直、経営にあえいでいるというのが現実です。でも我々として、J R 総連やあるいは鉄道ファブミリーをこれからもしっかりと守り抜いていくということは、現役であってもOBであってもそれは変わらない課題ではないかと考えております。東海労のOBの先輩方が継続組合員として頑張ってもらっているということとであります。是非これからもJ R 総連と鉄道ファブミリー支援に是非お力を頂ければと思っております。やはり反弾圧の闘いというのは組織拡大あるいは組織強化で跳ね返すというのが組織のセオリーだと思ひます。

私から一言、昨今、J R 東海労で結成をされたJ S 労に関して、一言、J R 総連としての考え方を述べておきたいと思ひます。この結成に至る経過を私も東海労本部から報告をいただきました。本来に現場第一線でサービックにいるプロパーの方たちと関係をつくりながらこの結成までこぎつけてきたというお話も聞きました。それはそれで大変な苦労があったんだと思ひます。しかし私が東海労の本部からお話を聞く限り、いくつかの課題も同時に起きているのではないかと思えてなりません。そのことについてお話をしたいと思ひます。

一つ目、まずは結成に至る議論の関係です。これは労連として関連会社に労働組合を立ち上げるといふことは組織方針でもありますし、これはJ R 総連としてもまったく否定するものではありません。しかし東海労の内部でこの結成に至るまでの議論が十分つくられたのかどうかといふこと、このことは東海労に結集する他の地本からも同じような意見がでているといふふうに聞きます。私は東海労の緊急執行委員会が開催された後、本部の畑野副委員長と関西地本の笹田委員長に「つくるならば、いい組織をつくりましょうよ」といふことをお話し一致をして来たと思ひます。ですから、やはりいわずれにしても結成に至る議論といふのは、東海労の中の議論がしっかりとつくられるといふことが前提だといふことです。

二つ目、東海労中央本部からの組織指導に関する事柄です。8月の3日に淵上委員長に「J S 労をたちあげる」といふお話があったと聞きます。しかし東海労中央本部は、8月9日に緊急執行委員会を開始して、この結成については延期をしてもらえないかといふことを組織で決定をしたと聞きます。8月6日の関西地本の執行委員会でも畑野副委員長が参加して「延期をしてください」といふお話をしたようでありましたが、平行線に終わったと聞きます。8月18日、結成の日に淵上委員長が中決定に基づいて要請文を持参し、関係者の皆さんと面談をし、東海労中央本部の意思をお伝えしたといふことも聞きま

した。しかし残念ながら、東海労中央本部の指導については受け取られず、指導に従うことはなかったということです。度重なる本部指導が受け入れられなかったということは、これは、結成は強行されたというふうにJR総連としては判断せざるを得ません。従って、JR総連は東海労が現在、継続議論ということになっているという議論の経過を踏まえて、現在、新労組の結成については認める立場に至っていないということをご報告させていただきまます。

三つ目に、二重加盟についてです。一般的に二重加盟というのは認められるということには前提だと思います。しかし現在、JR総連は二重加盟については認めておりません。従ってJR総連規約にも二重加盟に関する事は記載されていません。この二重加盟に関して様々な意見があります。容認される意見と批判される意見の両論があるということです。私も聞くところによると、サービックの会社に対して、JR東海労も団体交渉を申し入れる立場にあるしJS労も労働協約の締結に向けて申し入れをしていると聞きます。そうすると、東海労の組合員でありながら、JS労の団体交渉にも参加して会社と議論をするということになります。つまりサービックという会社にとっては、東海労とJS労の中に同じ人物が団体交渉の交渉員として表れるということになります。そうするといかなる問題が発生するか。サービックという会社からJR東海労に対しての信用が著しく失墜されてしまうということになります。「あなたはどちらの立場なんですか」ということになるわけです。こういうことを検討している大学教授の方もいらっしゃるということです。JR総連は先ほど、二重加盟は認めないという方向をお話ししましたが、本来、本体に集結をして、そして労連をつくりながら、労連を強化して、JR総連全体の力を高めていくというやり方です。したがって冒頭申し上げた通り、二重加盟については認めないというというのが今のJR総連の立場ということです。

四つ目です。組合員の登録についてです。今、JS労の役員の名前についてはJR総連

にも報告をいただいています。しかしサービックのプロパーの方たちが加入していると言いますが、残念ながらそのお名前前は私たちに明らかになっておりません。JR総連として報告をしていただいている以上、本当にどのような組合員が存在するのかが全く分からない状況になっています。それでは組織内組織ということになってしまいます。一般的に組織内組織というのは組織破壊というふうに言われてきたわけです。したがってそうならないように、しっかりと東海労とJR総連に対してどのような組合員が存在しているのかということも含めて明らかにしていきたいと思えます。

そしてもう一つです。先日行われました関西地域の大会について、一言申し述べておきたいと思えます。動議の取扱いについてです。JR東海労の規約では、動議は10名連記ということになっています。しかし聞くところによると、関西地域の代議員は7名ですから、動議を出すことができるといふことなんでしょうか。したがってその東海労の規約からすれば、この動議というのは成り立ちのかどうかということと是非、組織の中でも議論をしていただきたいと思えます。規約違反で審議をされた動議については、私は無効だと考えます。したがって、内容についても特別決議であり、これが方針提起が終わり、質疑が終了し、採決を行った後に出されたということでもあります。それが動議としてふさわしいのかどうかということも議論をお願いしたいと思います。したがってJR総連としては、冒頭申し上げた通り、結成に至る組織議論の問題、それから東海労中央本部からの組織指導にかかわる問題、二重加盟の問題、組織内組織にかかわる問題、五つ目の関西地域の組織運営にかかわる問題、多くの問題が孕まれています。私は冒頭申し上げた通り、反弾圧の闘いは組織拡大と組織強化により跳ね返していくというのが原則です。したがって、いい組織をつくるために私は東海労の皆さんに、以上の私が申しあげたような課題について、是非しっかりと議論を頂きながら、いいJS労をつくって頂きたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。ご清聴ありがとうございます。

J R 総連近畿地協第35回定期委員会終了後のやり取り

J R 東海労新幹線関西地本 浦谷

2023年11月26日（日）14:30から標題の定期委員会が開催されました。議事は、東海労選出の山本委員の議長により淡々と終了しました。委員会終了後に同じ会場で大阪府協定期委員会も淡々と開催されました。委員会終了後に予定されていた懇親会開始までに時間があることから、委員会会場を利用して山本事務局長から「ちよっと集まってくれ」との声がかかり、待機していた懇親会参加者は会場に戻って空いていた席に適当に座りました。すると、山本事務局長から（懇親会までにまだ時間があるから、今日の委員会での発言について整理しときたいと思います。」と集まった人に話しました。

参加者（津崎議長、菅野副議長、稲垣副議長、笹田副議長、山本事務局長、浦谷常任委員、吉野常任委員、末松常任委員、中村常任委員、田中常任委員、中塚常任委員、飯田常任委員退任）

会場の一番後ろの席に J R 総連熊谷書記長。

山本 ええーと懇親会17時30分ですけどちよっとえらく早く終わりましたので、17時ぐらいを目途に今、調整を図ってますので、時間がありますのでこの時間で本日の定期委員会が発言された内容について整理と若干の打ち合わせをやりたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

一つは私も言ったけど、出す、書面を出すときは議運を通すとか手順を踏んでやらないと、確か（津崎）議長は言われた時は配らないでくれと言ったにも関わらず、配られたことはこれらちよっと、定期委員会においてはルール違反になるんじゃないかと思ひます。このことは書面を出すときは議運を通じて出すべき。手順を踏んでほし

い。議長に言われた時しっかり、ひとつの問題の事象としては定期委員会においてはちゃんと事前に議運を通じるのが手順ですね。

笹田 それね、それは多分、西さんが津崎議長にお話があったと思いますが、その情報と、渡邊委員が発言してる時に配布したものは別のものです。別のもの話です。津崎 それは何でした。西さんの言ったのは。

笹田 西さんが聞いたのは、J S 労のボーマナス交渉の会社とのやり取りで、団交の自身についての情報やっただんです。

津崎 いや。

山本 どっちにしてもルール違反は。

菅野 事実関係の確認をしていかんと。

笹田 渡邊が発言してる時に配布したのは正直言って私も理解してなかったのが現実であって。

末松 うん。

菅野 冒頭に津崎議長にこれ撒きたいと言ってきたとき、津崎議長は見たの。

津崎 見せてもらってない。

菅野 うーん。

津崎 J S 労に関する情報を配布したいんですよ。

笹田 ぼくもここに来た時に、西さんから言われたんです。僕の判断では出来ないから、津崎議長に相談してくれと、その時に相談したのがそれで、その情報は配られていない。

菅野 配ろうとしたのはボーマナス交渉の。

山本 どちらにしても、さっきも言ったが、配るときは議運を通して、まして議長は、西さんのやつについては違うと言っ

って何が起きてるかわからないと思うし、俺だって、そこにおっただけどパッと見て民
 主化闘争情報って書いてるから民主化闘争情報を見たことあるなあとと思った認識で
 見ていた。ほな、発言の途中で見解がどうのこうのと裏面がどうのこうのって言うか
 ら裏ひっくり返してみたら、よくよく見たら日付が9月8日付けになっていた。9月
 8日付けの見解は見たことないから、多分、正式の見解は9月13日の日付かな、そ
 れ3やっついたら見たことある。それと違うから。だから俺は手を挙げて、出回ってない
 文章でどこから入手したか知らないけど、混乱を招くようになるからやめてくださ
 いとおいたほうがいいと思う。評価は別にして、事実関係ははっきりしておいたほ
 うがええなと思う。

菅野 そう言われればそうならなかつたなあとと思う。議事運営委員会を通して議長に取
 り計らいというようになつてなかつたというならそういうこと。

津崎 最初に西さんから私のほうに言われたのは、J S 労の情報ということやったから、
 私は内容を見てない。そして今、笹田さんからはそれは年末の何かやけど、配られた
 のもJ S 労に関する情報なんやわ。どっちも。どっちも。ああいうのが出たというの
 はそれにしてもだめですよと、言うことなんやわ。J S 労に関するこの情報は駄目
 ですよ。

菅野 ああいう形になるとは思わなかつたということ。

菅野 ぶわーと配られたからね。

菅野 もう一つは、傍聴の件。報告受けてました山本さん。傍聴。

菅野 ない。

菅野 ないね。私もない。

菅野 俺と浦谷との問題で、俺はしてくれてるものやと思っでいて、その思い込みで。
 菅野 それはないでしょう。

実と違つるのは、急遽、なんで、これはさっき言ったように議運を通してやるか、一定
 のルールに沿ってやらなければ混乱するだけなんで。

菅野 あの時点で 委員会の) 議長がいたが、要するに定期委員会を仕切った東海労の議
 長の取り仕切りの責任に止めることもなく許可したことでもいいの。この委員
 会の取り仕切りの責任というか廻しの関係で言えば、東海労の山本議長の判断でyッ
 て止めることなく進んだということになるんじゃないでしょうか。

菅野 山本議長は知っていたのか。

菅野 知らないけど。配りだしたけど止めるわけでもなく、我々、常任委員会側も止めな
 かつた。

菅野 山本議長に認識はあるんかな。

菅野 それはさっき言った。

菅野 出すときは議運を通してやるべきですよ。

菅野 議長も止めるべきやっただけど。

菅野 議運からきて議長が言うのは手順ですよん。

菅野 手順というか、仕切るのは議長。

菅野 それは運営上の仕切りであって、くれ配りたいとか何かしたいというの時は、あ
 れですよん、議運を通してやらないと。

菅野 俺も手を挙げて発言。

菅野 手を挙げて発言するなら。

菅野 普通は配るにしても、議長、これ配ってもいいですかと、その前の許可は山本事務
 局長が言うように、事前に常任委員会側に言っでいて、それが出来なかつた場合は、
 手を挙げて事前に常任委員会側に聞いて、ダメなら、議長に手を挙げてこれ配りたい
 んですよと、いうのがあってしかるべき。それがなくてやられると(委員会)議長だ

笹田 ただこの前の常任委員会が傍聴はオケケーだということでした。
 津崎 私のほうは基本的には傍聴は今回は取り組まないって言ってたはずです。
 笹田 前回の常任委員会では10人とかはあかんけどって。
 津崎 大阪府協が定期委員会をするから、それについては傍聴参加ということで、入って
 もらっても結構ですよと私は言った。それを笹田さんは傍聴参加って受け止めたのか
 もしれない。私のほうは傍聴は3単組、基本的には今回はやめときますよと、いろ
 で言った。これがちよっと抜けてるね。
 笹田 抜けてますね。
 中村 若干名と言った。若干名ならいいですよと言った語をしたと思います。
 津崎 大阪府協を含めてよね。大阪府協も入るから、それなら若干名ってなる。
 山本 キヤパの関係もあるから。参加する人は氏名報告しないと、若干名と言われると誰
 が来るんやと、いろのもあるの。そこは、誰と誰が参加しますと、4人5人6人参加し
 ますからと言って、事前にキヤパがあるのでそこはある程度、そこは含めて。
 笹田 申し訳なかった。
 山本 機関運営上の問題があるから。警備はする必要はないけど、そこはちやんとしとか
 んと、いろんなやつがある。
 津崎 発言の内容っていうのは理解していったんですかね。
 笹田 正直言ってあそこまで言うのかという内容的なものはあつたけど、関西地本とした
 ら渡邊が言ったものは分かるし、そういう議論で進んでいるというのはある。やっ
 ぱり組合員のひとは聞ってるっていうのは委員長としたらその思いをしっかりと受け止
 めてやっついていかないと、守らないといけない。そういうったことで渡邊が言った
 ことは。
 津崎 浦谷さんも一緒。あの内容は周知、認識してなかった。

浦谷 しゃべった原稿とか文面は見たことなかったの。この間、職場の園いや第三者機
 関の園いややってきたので、そこに基づく発言やということでも任せていたところもあ
 りまして、そこまでの文章までは把握はしてませんでした。思いは笹田委員長と同じ
 で、今年8月からずっとその議論をやってきましたのでその思いは間違ってること
 は言っていないということとは言わせてもらいたい。
 津崎 さっき、笹田さんにも聞いたが、傍聴者の氏名を報告してもらえません。
 笹田 さっき氏名が抜けていたのは、宮内。
 津崎 みやうち。
 山本 神社の宮。
 津崎 宮内。
 笹田 小林、前田、中塩路、松本、宮内、それと山本圭一さん。
 山本 圭一おつたな。
 浦谷 言い歌じみじなこと言いますが、僕も若干名という受け止めをしていたので、3分会
 あるので各分会1〜2名でどうですかということでも打診した結果がこういうことに
 なったということです。
 山本 確かに常任委員会で若干名と言ったことと、発言時間とか決めてなかつたので、こ
 ういうふうになるときは決めざるを得ないというふうになりますね。運営上の今回の
 定期委員会で、まあ配るのは議運のほうで、傍聴の関係、内容のほうは本人が言うこ
 とで、時間があまりにも長いと、結局、なかっという感じになってしまふから。そこ
 は第一回の常任委員会での今回の総括の視点になると思う。そこはそう思いますので。
 菅野 サービック労結成に関するJR総連見解は9月13日付けの文章。9月8日付けの文章
 は私も見たことない文章なので、見たことない者からすると、極端なことを言ったら
 怪文書、それに基づく議論されると、それを広めるといことは混乱をより引き拡

大することになるので、これはだれにどうもらったのか知らないけど、それを配布し
その内容に基づいて議論することについてはやめたほうがいいと思う。

菅田 そういう点については議論というのはない。

菅野 正式な奴は、9月13日付けのほうは。

菅田 それについては議論して。菅野の後にまた出たやつ。9月8日の民主化情報に書いてる通り。

菅野 民主化情報には、5

菅田 J R 連合が持っていて、いわゆるユニオンの役員がいる。

菅野 何者かはJR連合に送った者がいるんやろ。

菅田 渡邊にしたらユニオンの役員にもらったと。

菅野 J R 連合が発行した文章じゃないやん。

菅田 それを持っていた。

菅野 それを配って拡大するのは。

中村 結局、発言の内容は事実に基づいてとなくなってしまってるところがあって、配布されたものが事実となってるから、配ったのはちよっとまずかったかなという思いはある。

中村 わからいでもないけど、思いは分かるかも知れないけど、事実に基づいたものでないと、発言。

菅田 見解は議論してまずけど、声明は議論やっでない。

末松 だから次から配らないでねと言ってることだけやから、そこはウンもそうもない。次からちゃんと言ってる話。

菅田 次からはちゃんとやらないといけないのは、これからは修正していく。

末松 そこはそういう話なんやから、それ以上言ったら話がおかしくなるので。

津崎 東海労の中でのように議論されてるから分からないけど、あのJR連合の情報については10月28日に開催された総連の単組地協拡大代表会議でそこで出たからね。今、菅野さんが言ったように、これは怪文書ですと。東海労も3人出ていたから。そこはどうかというふうな東海労の組織内で指導しているのか。

菅田 声明については全然、議論してない。

菅野 声明というのは。

菅田 9月8日の。声明については一切、東海労では議論してない。見解については議論して。9月13日の見解については議論して。

菅野 事実でないとか。

菅田 そういうことも議論して。声明については配ったりしてない。

菅野 東海労の中でも配られてないものが配られたんです。

津崎 中ではそういうこともあとおもうけど。

津崎 代表者会議で同じことは言われた。10月28日の。日付が違いますが、怪文書です。

菅野 内容も違う。パッと見ただけで長さが違う。13日付のほう短い。というのが俺の印象。日付が違う、長さが違う。違う文章やと思ったから発言した。

津崎 定期委員会として今、山本事務局長が言われたように、今日のはそういうことが東海労関西の中であったとしても、それを定期委員会の運営の規約としてやっぱり議長を通さないといけない。いうところ。定期委員会の参加者、ちゃんと傍聴についても参加者氏名を報告すること。難しいかもしれないけど、私のほうから言ったらいいのかもしれないけど、これをふまえて次にこういうことが出る時には東海労関西からの菅田委員長からのそれはやめてくださいというふうないうふうなように、近畿地協の中を混乱さすようなことになるから。改めて第一回常任委員会ですれについては徹底しますけども、今日、いってる中での一応、総括との。

言っていますが、近畿地協緊急常任委員会において、組織破壊攻撃と確認した為、近畿地協として、誰が撤くことを指示したのか？誰がどこから9月8日付のJR総連緊急声明を入手したのか、渡邊、下茂、西に聞き取りを12月10日までに行い、私に報告して下さい。よろしく願います。」

以上に対して、笹田委員長が折り返し津崎議長に電話。熊谷書記長から渡邊、下茂、西さんの聞き取りを設定して欲しい。そこに、熊谷、津崎、笹田も参加して聞き取りをした。笹田委員長からは、全員そろっては難しいと言うと、一人一人でもかまわないとのことです。笹田委員長は、本人達と話をしてみますと返答。

12/2 第1回地協常任委員会の日程に関する津崎議長とのやりとり。

津：現在、調整中。

浦：私は都合悪い。

津：笹田さんは無理か。

浦：そもそも日勤帯は無理。笹田委員長の個人的な都合は把握していない。

津：2人の都合のつく日はいつか。

浦：笹田委員長と検討する。

浦：LINEでやり取りしましたが、混乱とか組織破壊だとか、撤回してもらえますか。

津：あの日、緊急常任委員会を開催して山本事務局長から組織破壊だと確認した。

浦：いい加減な事言ったらあかん。混乱もないし組織破壊なんて誰も言っていない。

津：委員会の後に緊急常任委員会で確認した。

浦：なかつた事をあつたかのように言ったらあかん。事実を捏造するのか。労働組合の役員としてやったらあかん事。

山本 今日の事実経過。
津崎 今日の事実経過、ということ。
山本 それでよろしいかと思うけど。
菅野 みんなに言うけど、東海労は12月14日に臨時大会を開く。この中でJS労の結成の経過について東海労としての取りまとめをやるんやね。

笹田 もう地本大会でも決まって一緒にやっていく。

菅野 熊谷書記長も言ってたけど、総連としても東海労と議論して回収していくという話やから。地協としたらその経緯を見守っていくしかない。その辺についてみんな、認識しておいたほうがいい。

笹田 我々としたら、臨大を開いてJS労と共にやっていくための労連を結成するために機関整備するための大会が臨大。

山本 そういった点も第一回常任委員会の中で、議論になるかと思いますが、今はどうするかは単組の中で決まると思っていますので、今日の定期委員会の中での発言に関する、怪文書の経緯をいる者だけで、申し訳ないけど、第1回の1月29日で再度、議題として総括とその辺の取り扱いをどうするかということは話になろうかかと思えますので、各関係者、よろしいでしょうか。ほな、時間になりましたので。

以上

その後の津崎議長及び菅野副議長とのやりとり

11/29 津崎地協議長から笹田委員長へのLINE

「地協定期委員会の渡邊発言中に、ばら撒かれたビラについて、笹田さん浦谷さんは、中身について知らなかった、配る事も知らなかったこれを見まかせん。ありがと聞いていると

津：確認した。次の常任委員会で確認する。

浦：なかつた事を確認出来るのか。津崎さん、そんなんやっていたらあかん。熊谷書記長に言われているのか。

津：そんなことない。

浦：熊谷の言いきなりになったらあかん。津崎さんや貨物労組に矢印が向く事になる。

津：あなたこそ、いい加減な事を言ってる。

浦：無茶苦茶な運営は問題や。

12.8 近畿地協・菅野副議長（西労）とのやりとり

浦谷：津崎さんから、地協定期委員会終了後の打ち合わせで、渡辺さんの発言、配布した事を緊急常任委員会で確認したという話を聞いている。菅野さんも当日、その場にいたがそのような確認はしてないですね。

菅野：確か、山本事務局長が破壊という事でいいですかと、皆んなに提起して、皆んなに承認をしたという認識やな。

浦谷：そんな確認はしてない。仮にそんな話になったら私から抗議してる。作り話を

言わないで欲しい。

菅野：確か、承認したはず。

浦谷：既に本部に事実を報告してる。証拠もある。録音していた。

菅野：そんな事しとったのか。何で撮っていたのか。ICか。

浦谷：何で取ろうと関係ない。嘘をついたらダメですよ。

菅野：そんなやり方したらあかん。違う問題になる。

浦谷：嘘をつくのは悪くないのか。打ち合わせの時、菅野さんは評価は別にして事実

確認が大事やと言っていたが、あのセリフは何か。ウソですか。津崎さんと2人でむちやくちやな組織運営をやってる。問題や。

菅野：そのやり方はあかんよ。

浦谷：ウソをつくのにはあきませんよ。

12月13日、津崎議長から笹田委員長に以下のLINE

電話しましたが、通じないのでLINEで今日の地協常任委員会での確認事項を一報します。

出席者は、津崎、菅野、稲垣、山本、中村、末松、嶋川、中塚、田中の9名。13名中9名で常任委員会は成立です。

11月26日の定期委員会後の打合せで、津崎議長が組織破壊攻撃を確認したと言っていました。組織破壊攻撃を確認したことは無かったことを出席した常任委員全員で確認しました。津崎議長の11月26日の組織破壊攻撃の確認は撤回します。申し訳ありませんでした。謝罪しお詫び申し上げます。

しかし、本日の常任委員会で、あらかじめ規約規則に基づかないビラ配布や9月8日付け怪文書の配布は、定期委員会を混乱させる行為は事実として発生した為、これは組織破壊行為であることを今日の地協常任委員会で出席した9名の常任委員全員で確認しました。また関係者に対して今後怪文書の出所や誰が主導したのかなど、聞き取り調査を行なっていくことも今日の地協常任委員会で確認しました。

以上、今日の地協常任委員会での決定事項の一報です。

あとがき

「民主主義と専制主義」。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を契機にマスメディアでよく使われる表現である。アメリカやG7をはじめとした欧米諸国を民主主義勢力、中国やロシア、北朝鮮などを専制主義勢力という色分けであろう。私たちが住む日本は、民主主義勢力の一員として、アメリカと固くタッグを組んで民主主義の旗振り役を果たしている。

戦後の国際社会は、連合国3カ国によるヤルタ会談によって合意した「戦後の世界秩序」から始まった。ヤルタ会談は1945年2月に開催されたが、ナチス・ドイツが無条件降伏したのは5月。そして、7月のポツダム宣言を経て、二つの原爆投下をもって日本が無条件降伏したのは8月15日であった。ヤルタ会談は、「ソ連の対日参戦に関する協定（秘密協定）」によって、ソ連の対日参戦を秘密裏に確認したという意義をもち、73年後の現在まで続く北方領土問題は、ソ連＝ロシアだけではなくアメリカ、イギリスも容認＝合意したことを意味する。そして、この3カ国にフランスと中国を加えた5カ国が、拒否権を有する現在の国際連合（国連）常任理事国である。ウクライナやガザ地区での戦闘行為・大量殺戮も、停戦の話は出るものの、この5大国による拒否権が威力を発揮し停戦は実現しない。これが現在の世界秩序である。民主主義か専制主義か？ 権力者が作り出した世界秩序なんてこんなものだ。もし、73年前のヤルタ会談が現在も存在するのなら、ウクライナの先、ガザの先はすでに合意されているかもしれない。

今回の臨時大会では、静岡の山本代議員が「私たちの闘いには、平和人権民主主義を守る為に関っている方々の期待も、未来もかかっていることを忘れはならない」と述べ、名古屋の丹羽代議員は「J S 労の結成は東海の地から労働運動の灯を消さないための結成でもあり、いわんや、この時代において新しい労働組合の創造は日本労働運動の新たな端緒を切り拓いた闘いだ」と発言した。二人の発言は、単にJ R という狭い社会にとどまらない、まさに日本の社会全体や日本労働運動全体を見据えた発言である。

J S 労の結成を日本の権力者はどう捉えているだろうか？

「ブルジョア階級は、かれら自身の姿に型どって世界を創造する」は、マルクス・エンゲルスの『共産党宣言』の一節である。マルクスは、労働者階級の解放を求めて「万国の労働者、団結せよ！」と訴えた。『宣言』が発表されてから175年後の現在、万国の労働者は、そして日本の労働者は団結しているだろうか？

権力者が秩序を決めることは歴史の事実だ。しかし、力のない権力者（自らは力があると思っ込んでいる）がつくる秩序は、果たして秩序と言えるかどうか疑問である。

マルクスおじさんは空の上から現在の世界を、現在の世界の労働運動を、そして現在のJ R 労働運動をどう見ているだろうか？「どうしようもねえなあ」と、嘆きの声が聞こえそうである。

切り拓いた新たな歴史の1ページ 第40回臨時大会



ヤルタ会談に臨む（左から）チャーチル（英）・ルーズベルト（米）・スターリン（ソ）